

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 9 版
	検査案内	QT-採取-0001	1 / 69 頁

検査案内

第 9 版

施行日：2025 年 10 月 1 日

松波総合病院 中央検査室

作成者	2025 年 9 月 15 日	神谷 敏之
確認者	2025 年 9 月 17 日	大野 あけみ
承認者	2025 年 9 月 19 日	後藤 幸雄

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	2 / 69 頁

改版/レビュー履歴

版	改版/ レビュー	施行日 (レビュー日)	内容	作成者	承認者
1	作成	2023/10/1	第 1 版発行・使用開始	森本剛史	酒井昭嘉
2	改版	2024/1/26	8 生理検査に 循環動態や呼吸状態が不安定な患者は、受け入れが困難な場合があります。を追記した。	後藤幸雄	酒井昭嘉
3	改版	2024/2/9	7.2 検査依頼：電子カルテ依頼 (5) 注意事項の検体搬送容器と受入不可検体について追記及び一部内容の変更をした。	川出真由美	酒井昭嘉
4	改版	2024/9/2	3.検査依頼 4.検体検査（尿一般、-血液、生化学、免疫検査） 5.輸血検査（輸血部） 6.細菌検査（迅速尿中抗原検査・遺伝子検査を含む） 7.病理検査（組織検査、細胞診検査、解剖） 8.生理検査 9.採血室 10.夜間・休日緊急検査(当直帯) 11.検体採取手順 12.検体の提出・搬送 13.検体受付手順 14.追加検査の依頼手順 15.患者の同意 17.緊急報告値報告手順 20 検査室のご意見ご要望 について修正・追記及び一部内容の変更を実施した。	森本剛史	酒井昭嘉
4	レビュー	2024/9/2	レビューを実施した。	森本剛史	酒井昭嘉
5	改版	2024/12/24	4.8.2 容器一覧：U 備考追記 6.3(1)注意事項(a)：追記 6.3.4(2)注意点 b：血培ボトル冷蔵不可追記 6.3.5：(2)注意点 a 髄液冷蔵不可追記 10.1 検体受付時間(2)：尿キャンセル追記 11.3.2(2)採尿方法での留意事項：e.尿分注攪拌事項追記	森本剛史	酒井昭嘉
6	改版	2024/12/28	4.6.2 容器一覧：U、V 備考追記 4.8.2 容器一覧：U 備考の修正および追記 6.3(1)注意事項 a：追記 6.3.3(2)注意点 e.追記 7.1 検体受付(3)病理解剖：依頼連絡方法の修正 7.3.5 病理検体の取り扱い：内容の修正及び追記 10.1 検体受付時間(2)：尿キャンセル追記 11.3.2(2)採尿方法での留意事項：e.尿分注事項の修正および追記	大野あけみ	酒井昭嘉
7	改版	2025/3/27	7.2 検査依頼：電子カルテ依頼 (3) 4) 病理解剖の承諾書の詳細追記、6) 病理標本の貸出の期限の追記 7.3.5 病理検体の取り扱い(1) 組織検体 a.	川出真由美	後藤幸雄

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	3 / 69 頁

版	改版/ レビュー	施行日 (レビュー日)	内容	作成者	承認者
			の固定前プロセスの追記		
8	改版	2025/8/25	2. 検査室連絡先および業務時間 検査部長の連絡先を修正	神谷敏之	後藤幸雄
9	改版/ レビュー	2025/10/1	2. 検査室連絡先および業務時間、 17.2 緊急報告値の報告、 20. 検査室のご意見ご要望 について一部 修正および追記を実施 レビュー実施	神谷敏之	後藤幸雄

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	4 / 69 頁

目次

検査案内について	6
1. 検査室の所在地	6
2. 検査室連絡先および業務時間	8
3 検査依頼	10
3.1 電子カルテからのオーダー	10
3.2 伝票による依頼	10
3.3 電子カルテシステムダウン時対応	11
4 検体検査（尿一般、血液、生化学、免疫検査）	11
4.1 検体受付	11
4.2 検査依頼：電子カルテ依頼	12
4.3 病棟分先付依頼	13
4.4 保険未収載検査について	13
4.5 所要時間と再検査について	13
4.6 生化学血清検査	14
4.7 血液検査	22
4.8 一般検査	26
5 輸血検査（輸血部）	33
5.1 検体受付	33
5.2 検査依頼：電子カルテ依頼	33
5.2.1 検査依頼	33
5.2.2 交差試験用検体依頼（血液製剤依頼指示に付随します）	33
5.3 輸血検査項目一覧	34
5.4 容器一覧	35
6. 細菌検査（迅速尿中抗原検査・遺伝子検査を含む）	36
6.1 検体受付	36
6.2 検査依頼：電子カルテ依頼	36
6.3 細菌検査・迅速抗原検査・遺伝子検査	37
6.4 容器一覧	42
7 病理検査（組織検査、細胞診検査、解剖）	43
7.1 検体受付	43
7.2 検査依頼：電子カルテ依頼	43
7.3 病理診断項目	45
8 生理検査	50
8.1 検査受付	50
8.2 検査依頼：電子カルテ依頼	50

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	5 / 69 頁

8.3 生理検査項目	51
9. 採血室	55
9.1 採血受付時間	55
9.2 採血受付場所	55
9.3 採血時注意事項.....	55
10. 夜間・休日緊急検査（当直帯）	56
10.1 検体受付時間	56
10.2 検体受付場所	56
10.3 依頼方法.....	56
10.4 夜間・休日緊急検査項目一覧.....	57
11. 検体採取手順.....	58
11.1 外来検体（診療室内採取）	58
11.2 病棟検体.....	58
11.3 検体採取方法.....	58
12. 検体の提出、搬送	61
12.1 手搬送	61
12.2 気送管（エアシュータ搬送）	61
13. 検体受付手順	61
14. 追加検査の依頼手順	62
14.1 検体保存期間一覧	63
15. 患者の同意	64
15.1 通常検査.....	64
15.2 侵襲的検査.....	64
15.3 染色体検査・遺伝子検査等	64
16. アドバイスサービスの案内.....	64
17 緊急報告値報告手順	65
17.1 緊急報告値一覧.....	65
17.2 緊急報告値の報告	68
18. 検査結果の変動因子	68
19. 個人情報の保護に関する検査室の方針	68
20. 検査室のご意見ご要望.....	69
21. 関連文書.....	69

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第6版
	検査案内	QT-採取-0001	6 / 69 頁

検査案内について

松波総合病院 中央検査室で実施している検査についてご案内いたします。

検査内容が一部変更する場合は病院イントラネットの掲示板「検査のお知らせ」に掲載いたしますので合わせてご利用ください。

1. 検査室の所在地

松波総合病院 中央検査室（以下、「検査室」という。）

所在地：〒501-6062 岐阜県羽島郡笠松町田代185-1

電話番号（病院代表） 058-388-0111

南館2階 中央検査室（検体検査室、細菌検査室、輸血検査室、脳波検査室）

南館1階 病理検査室 病理診断室

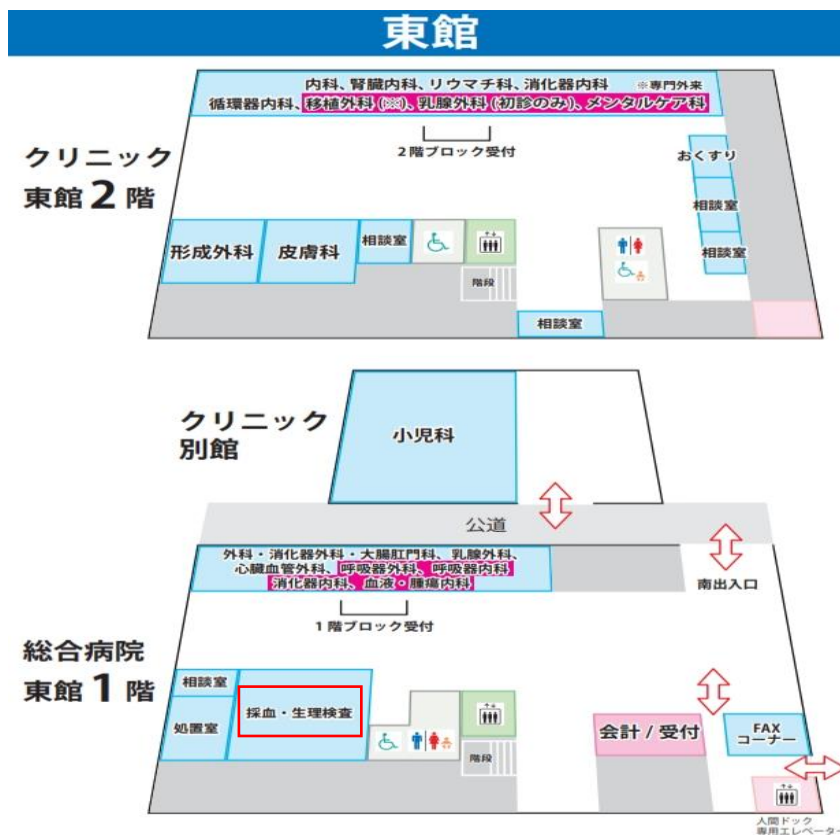
北館2階 超音波検査室、生理検査室、採血室

北館1階 病理検査室



松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第6版
	検査案内	QT-採取-0001	7 / 69 頁

東館1階 採血室、生理検査室



外注委託先：

株式会社 エスアールエル

〒107-0052 東京都港区赤坂1-8-1 電話番号 03-6279-0900

営業本部 東海・北陸支店 小牧営業所 岐阜拠点

〒502-0847 岐阜県岐阜市早田栄町3-42 電話番号 050-2000-4772

株式会社 ビー・エム・エル

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-21-3 電話番号 03-6629-7386

東海支社岐阜営業所 〒500-8367 岐阜市宇佐南1-18-22 電話番号 058-274-2241

株式会社 ファルコバイオシステムズ

〒613-0036 京都府久世郡久御山町田井西荒見17-1 電話番号 0774-30-9240

東海エリア岐阜営業所 〒500-8227 岐阜県岐阜市北一色3-5-9 電話番号 058-240-4451

公益財団法人 かずさDNA研究所

〒292-0818 千葉県木更津市かずさ鎌足2-5-23 電話番号 0438-52-3335

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	8 / 69 頁

株式会社 協同病理

〒651-2112 兵庫県神戸市西区大津和2丁目7-12 電話番号 078-977-0730

株式会社 中部パソロジー

〒501-6017 岐阜県羽島郡岐南町徳田西1丁目66-1 電話番号 058-201-1750

日本赤十字社 東海北陸ブロック血液センター 岐阜県赤十字血液センター

〒500-8269 岐阜県岐阜市茜部中島2-10 電話番号 058-272-6911

2. 検査室連絡先および業務時間

検査項目、検査結果、検査容器など、検査に関する問合せや要望・苦情は下記の担当部署に連絡してください。また、平日時間外、休日は当直内線 51231 に連絡してください。

検査室外で所有し使用する POCT (point of care testing) の取り扱いに関する責任と権限はそれぞれの検査実施部門に帰属します。

平日（日勤帯）体制 : 8 時～17 時
土曜体制 : 8 時～12 時
休祝日（日勤帯）体制 : 8 時～17 時
土曜午後検査体制 : 12 時～17 時
夜間当直体制 : 17 時～翌日 8 時

※ 休祝日、土曜午後、夜間当直体制は、時間外検査項目のみの対応となります。また、年末年始の 12 月 30 日午後および 12 月 31 日～1 月 3 日までは、時間外検査項目のみの対応となります。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	9 / 69 頁

検査室・部署	連絡先（内線）	場 所	業務内容
検体検査室 検体受付 一般検査 血液検査 生化学検査 免疫検査 委託検査	2235 51231	《南館 2 階》 検体検査室	検体受付（検体、容器、結果、 治験、前日予約分病棟採血管等 問い合わせ） 尿一般検査、穿刺液、便検査 血算、血液像、骨髓像、血沈 凝固・線溶検査 生化学検査、血糖検査、HbA1C、 CRP、免疫グロブリン、血中薬物 濃度、血液ガス、感染症検査、 腫瘍マーカー、甲状腺機能検査、 外注検査など
採血室	【東館】 2829 【北館】 3240	【東館 1 階】 14：採血・生理検査 【北館 2 階】 L：採血	外来採血
輸血検査 （当直帯含む）	51961	【南館 2 階】 輸血検査室	輸血検査、血液製剤管理
細菌検査	2201 51377	【南館 2 階】 細菌検査室	細菌検査、抗酸菌検査、迅速尿中 抗原検査 新型コロナウイルス（LAMP 法 検査）
病理検査	3150	【北館 1 階】 病理検査室	組織診断、細胞診断、解剖
生理検査	【北館生理検査室】 3238、3237（3238 が 繋がらない場合） 【北館南館生理検査】 51678 【北館超音波室】 3205、51229 【東館生理検査室】 2828、51280 【聴力室】 6488	【北館 2 階】 O：生理検査室 J：超音波検査室 聴力室 【東館 1 階】 14：採血・生理検査 【南館 2 階】 脳波検査室	心電図検査、呼吸機能検査 脳波検査、超音波検査など

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	10 / 69 頁

検査室・部署	連絡先（内線）	場 所	業務内容
当直帯連絡先	51231	【南館 2 階】 検体検査室	検体受付、保存 時間外(夜間)・休日対応、 緊急検査項目
中央検査室部長	51230	【南館 2 階】 検体検査室	検査に関するご相談、ご意見、 ご要望（苦情含む）

3 検査依頼

3.1 電子カルテからのオーダー

- (1) 患者 ID を入力して、患者情報画面を開きます。
- (2) 電子カルテ→「オーダー入力」→各メニューからオーダーします。

検査依頼方法の詳細については、病院イントラネットの「ファイル管理」→
「操作マニュアル」→「電子カルテ操作」→「マニュアル（オーダー編）」を参照ください。

3.3 検体検査オーダー（細菌検査を含む）

3.5 画像生理オーダー

3.13、3.14 病理オーダー

・輸血オーダー参照先

病院イントラネット→「輸血」→「操作マニュアル」→「輸血オーダーマニュアル」

注意：原則、口頭の依頼はできませんので必ず電子カルテでご依頼ください。ただし、
病理検査および細菌検査は一部口頭依頼を受け付けるため、下記を参照してください。

病理追加検査：7.2 検査依頼（3）1）組織診断

病理緊急迅速検査：7.2 検査依頼（3）2）術中迅速診断

抗酸菌培養陽性時の追加検査：6.2 検査依頼（3）

3.2 伝票による依頼

- (1) 指定の用紙に、患者 ID、氏名、生年月日、年齢、性別、採取日、検査項目（検体種別）、
主治医名等、必要事項をご記入ください。
- (2) 採取検体に、患者 ID、氏名等を記入し、依頼書とともに中央検査室へご提出ください。
- (3) 依頼書の提出方法

a.検査依頼書：1 枚目、2 枚目（白色）…依頼元控え

3 枚目（青色）…医事会計用

4 枚目（ピンク色）…検査室提出用

b.総合検査依頼書（FALCO）：1 枚目、2 枚目…細菌検査室提出用

3 枚目…依頼元控え

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	11 / 69 頁

3.3 電子カルテシステムダウン時対応

- (1) 電子カルテおよび検査部門システムがダウンした場合は、障害の程度によっては、検査伝票を使用します。

検索方法

病院イントラネットトップページ→ファイル管理（ルートフォルダ）→中央検査室→
検体・細菌検査→コンピューター停止時の伝票運用について

ダウン時用依頼書→検体検査：災害時・システム障害時 検体検査依頼票

細菌検査：災害時・システム障害時 検体検査依頼票

生理検査：システム障害時 生理検査依頼票

輸血：輸血手書き依頼書・払出票

病理：迅速検査のみ電話連絡（口頭依頼）：北館病理検査室（内線 3150）

- (2) 記載事項：必要な患者情報をすべて記入ください。
(3) 検体には、患者 ID、氏名を記入して提出してください。

4 検体検査（尿一般、血液、生化学、免疫検査）

検体検査室 内線：2235、51231

4.1 検体受付

- (1) 検体受付時間

平日：月曜日～金曜日 8 時～17 時

土曜： 8 時～12 時

上記以外の時間および休祝日：日当直者対応

- (2) 検体の受付場所

南館 2 階 中央検査室

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	12 / 69 頁

4.2 検査依頼：電子カルテ依頼

(1) メニュー

- 平日：尿・血液・生化学・免疫検査等
- 夜間・休日：夜間休日対応緊急検査項目
- 院内通常検査 1：尿・血液・生化学・免疫検査等
- 院内通常検査 2：尿・血液・生化学・免疫検査等
- 診療科セット：各診療科セット
- 伝票：尿・血液・生化学・免疫検査等
- 耐糖負荷：血糖負荷試験
- 負荷試験：その他負荷試験
- 日内変動：血糖日内変動

＊ 検査項目の検索方法：依頼画面で検索(右上)から、検索する検査項目の何文字かを入力して検索すると、その文字が含まれているすべての項目が表示されますので、項目を選択してクリックして確定すると依頼項目画面に展開し依頼可能となります。

【注意事項】

保険診療が基本ですので、査定対象にならないよう留意してください。

- ＊ 臨床検査の依頼は、必要最低限度でお願いします。
- ＊ 画一的な多目的検査は避け臓器別の特徴ある依頼をお願いします。
- ＊ 同系検査の多項目・傾向的検査は避けてください。

(2) 緊急検査項目

赤文字のボタンが緊急検査項目です。

(3) 依頼コメント

コメント追加で定型文やフリーコメントの入力ができます。

(4) 伝票依頼（特殊項目）

電子カルテに検査項目がない時に使用します。

(5) オーダの追加と中止

a. 追加依頼

ラベル出力(印刷)後はオーダ修正できません。新たにオーダ入力し、検査受付(内線 2235)に連絡して再採血の必要性を確認してください。採血が不要の場合は出力したラベルを、採血が必要な場合はラベルを貼った容器に採血して、提出してください。

b. 中止

ラベル出力(印刷)後は中止処理できないため、検査受付(内線 2235)に連絡してください。また、外来の場合は医事会計にも中止の連絡をしてください。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	13 / 69 頁

4.3 病棟分先付依頼

- (1) 採血予定日の前日に検体容器を作成し、各病棟に配布しています。
- (2) 病棟配付予定時間
平日 16 時
土曜日 11 時
休祝日 16 時～17 時
- (3) 容器の確認は、病院イントラネットのアイコン 検体・細菌検査 → 検査項目と採血管 をご参照ください。

4.4 保険未収載検査について

- (1) 保険未収載検査は、病院負担になります。
- (2) 病院負担申請書に必要事項を記入の上、診療局長の承認を得てから提出をお願いします。
CSS → 医師画面 → 病院負担申請書

4.5 所要時間と再検査について

- (1) 検体検査の項目一覧に記載の所要時間は外来至急検査の目安となっており、検体が検査室に到着してから結果が出るまでの時間です。
- (2) 救急や至急検体を優先的に検査します。
- (3) 朝の病棟検体については、検体が到着し都度受付をして検査を実施します。
- (4) 指定材料以外の材料で検査した結果につきましては、参考値報告となります。
- (5) 血清分離に時間がかかる場合や再採血、再検査を実施する場合は、検査に時間を要します。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	14 / 69 頁

4.6 生化学血清検査

4.6.1 項目一覧

検査項目	検体量 mL	材料	容器 区分	検査方法	基準範囲・ 臨床判断値	単位	所要 時間
総蛋白 (TP)	0.2	血清	A,E,S,T	ビュレット法	6.6～8.1	g/dL	60 分
アルブミン (ALB)	0.2	血清	A,E,S,T	BCP 改良法	4.1～5.1	g/dL	60 分
尿素窒素 (BUN)	0.2	血清 尿、蓄 尿	A,E,S,T, U	ウレアゼ・GIDH 法、アモニア消去法	血清：8～20 部分尿：基準値なし 蓄尿：6～15	mg/dL g/day	60 分
クレアチニン (Cre)	0.2	血清 尿、蓄 尿	A,E,S,T, U	クレアチナーゼ・ HMMPS 法	血清 男性：0.65～1.07 女性：0.46～0.79 部分尿：基準値なし 蓄尿：1.0～1.5	mg/dL g/day	60 分
ナトリウム (Na)	0.2	血清 尿、蓄 尿	A,E,S,T, U	電極法	血清：138～145 部分尿：基準値なし 蓄尿：125～250	mmol/L mmol/L/day	60 分
カリウム (K)	0.2	血清 尿、蓄 尿	A,E,S,T, U	電極法	血清：3.6～4.8 部分尿：基準値なし 蓄尿：50～100	mmol/L mmol/L/day	60 分
クロール (Cl)	0.2	血清 尿、蓄 尿	A,E,S,T, U	電極法	血清：101～108 部分尿：基準値なし 蓄尿：70～250	mmol/L mmol/L/day	60 分
カルシウム (Ca)	0.2	血清 尿、蓄 尿	A,E,S,T, U	酵素法	血清：8.8～10.1 部分尿：基準値なし 蓄尿：0.1～0.3	mg/dL g/day	60 分
無機リン (iP)	0.2	血清 尿、蓄 尿	A,E,S,T, U	酵素法	血清：2.7～4.6 部分尿：基準値なし 蓄尿：0.5～2.0	mg/dL g/day	60 分
鉄 (Fe)	0.2	血清	A,E,S,T	バゾフェントロン直接法	40～188	μg/dL	60 分
不飽和鉄結合能 (UIBC)	0.2	血清	A,E,S,T	バゾフェントロン直接法	191～269	μg/dL	60 分
マグネシウム (Mg)	0.2	血清 尿、蓄 尿	A,E,S,T, U	酵素法	血清：1.8～2.4 部分尿：基準値なし 蓄尿：0.02～0.16	mg/dL g/day	60 分

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	15 / 69 頁

検査項目	検体量 mL	材料	容器 区分	検査方法	基準範囲・ 臨床判断値	単位	所要 時間
総ビリルビン (T-BIL)	0.2	血清	A,E,S,T	バナジウム酸化法	0.4～1.5	mg/dL	60 分
小児 T-BIL	0.077	血清	I	分光光度法	0.4～1.5	mg/dL	60 分
直接ビリルビン (D-BIL)	0.2	血清	A,E,S,T	バナジウム酸化法	0～0.4	mg/dL	60 分
総コレステロール (T-Cho)	0.2	血清	A,E,S,T	コレステロールキシダーゼ・ HMMPS 法	142～248	mg/dL	60 分
中性脂肪 (TG)	0.2	血清	A,E,S,T	GPO・HMMPS 法、グリセリン消去 法	男性：40～234 女性：30～117	mg/dL	60 分
HDL-コレステロール	0.2	血清	A,E,S,T	選択消去法	男性：38～90 女性：48～103	mg/dL	60 分
LDL-コレステロール	0.2	血清	A,E,S,T	選択消去法	65～163	mg/dL	60 分
尿酸 (UA)	0.2	血清 尿、蓄 尿	A,E,S,T, U	ウリカーゼ・ HMMPS 法	血清男性：3.7～7.8 女性：2.6～5.5 部分尿：基準値なし 蓄尿男性：0.8 未満 女性：0.75 未満	mg/dL g/day	60 分
AST	0.2	血清	A,E,S,T	JSCC 標準化対応	13～30	U/L	60 分
ALT	0.2	血清	A,E,S,T	JSCC 標準化対応	男性：10～42 女性：7～23	U/L	60 分
LD・IFCC	0.2	血清	A,E,S,T	IFCC 対応法	124～222	U/L	60 分
ALP・IFCC	0.2	血清	A,E,S,T	IFCC 対応法	38～113	U/L	60 分
CK	0.2	血清	A,E,S,T	JSCC 標準化対応	男性：59～248 女性：41～153	U/L	60 分
CK-MB	0.2	血清	A,E,S,T	ラテックス比濁法	5 以下	ng/mL	60 分
トロポニン T	0.4	血清	A,E,S,T	CLEIA 法	0.100 未満	ng/mL	60 分
AMY	0.2	血清 尿	A,E,S,T, U	JSCC 標準化対応	血清：44～132 尿：50～500	U/L	60 分
ChE	0.2	血清	A,E,S,T	JSCC 標準化対応	男性：240～486 女性：201～421	U/L	60 分
γ-GTP	0.2	血清	A,E,S,T	JSCC 標準化対応	男性：13～64 女性：9～32	U/L	60 分
リパーゼ	0.2	血清	A,E,S,T	1,2-シグマリセリト基 質・TOOS 法	7～60	U/L	60 分

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	16 / 69 頁

検査項目	検体量 mL	材料	容器 区分	検査方法	基準範囲・ 臨床判断値	単位	所要 時間
血糖ブレイン(Glu)	0.2	血清 尿、蓄 尿	A,E,S,T, U	ヘキサナーゼ・G-6- PDH 法	血清：73～109 部分尿：基準値なし 蓄尿：0.13～0.5	mg/dL g/day	60 分
血糖 (Glu)	2	血清、 血漿、 尿、	A,E,G, S,T,U,W	GOD 固定化酵 素酸素電極法	73～109	mg/dL	30 分
HbA1c	2	全血	G,W	HPLC 法	4.9～6.0	%	30 分
グリコアルブミン	0.2	血清	A,E,S,T	酵素法	11.0～16.0	%	60 分
CRP	0.2	血清	A,E,S,T	ラテックス比濁法	0.00～0.14	mg/dL	60 分
プロカルシトニン (PCT)	0.3	血清	A,E,S,T	CLEIA 法	0.5 未満	ng/mL	60 分
NT-ProBNP	0.4	血清	A,E,S,T	CLEIA 法	125 未満	pg/mL	60 分
BNP	3	血漿	B	CLEIA 法	18.4 以下	pg/mL	60 分
アンモニア※ (NH3)	2	全血	H	プロモフェノールブル ーを用いる指示薬法	12～66	μg/dL	10 分
尿蛋白定量	0.2	尿、蓄 尿	U	ビロカロールレッド法	部分尿：基準値なし 蓄尿：31.2～120	mg/day	60 分
尿微量アルブミン定量	0.2	尿 蓄尿	U	免疫比濁法	部分尿：30 以下 蓄尿：30 以下	mg/gCRE mg/day	60 分
IgG	0.2	血清	A,E,S,T	免疫比濁法	861～1747	mg/dL	60 分
IgA	0.2	血清	A,E,S,T	免疫比濁法	93～393	mg/dL	60 分
IgM	0.2	血清	A,E,S,T	免疫比濁法	男性：33～183 女性：50～269	mg/dL	60 分
リウマチ因子 (RF)	0.2	血清	A,E,S,T	ラテックス比濁法	15 以下	IU/mL	60 分
β2 マイクログロブリン	0.2	血清 尿 蓄尿	A,E,S,T, U	ラテックス比濁法	血清：2.0 以下 尿：230 以下	mg/L μg/L	60 分
TSH (甲状腺刺激ホルモン)	0.3	血清	A,E,S,T	CLEIA 法	0.500～4.800	μIU/mL	60 分
FreeT3 (遊離トリヨードサイロニン)	0.3	血清	A,E,S,T	CLEIA 法	2.51～4.16	pg/mL	60 分
FreeT4 (遊離サイロキシニン)	0.3	血清	A,E,S,T	CLEIA 法	0.83～1.77	ng/dL	60 分
CA19-9	0.3	血清	A,E,S,T	CLEIA 法	37.0 以下	U/mL	60 分
CA15-3	0.3	血清	A,E,S,T	CLEIA 法	25.0 以下	U/mL	60 分
AFP	0.4	血清	A,E,S,T	CLEIA 法	10.0 以下	ng/mL	60 分
CEA	0.3	血清	A,E,S,T	CLEIA 法	5.0 以下	ng/mL	60 分

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	17 / 69 頁

検査項目	検体量 mL	材料	容器 区分	検査方法	基準範囲・ 臨床判断値	単位	所要 時間
PSA	0.3	血清	A,E,S,T	CLEIA 法	4.000 以下	ng/mL	60 分
CA-125	0.4	血清	A,E,S,T	CLEIA 法	35.0 以下	U/mL	60 分
血漿コルチゾール院内	0.5	血漿	B	CLEIA 法	4.0～18.3	μg/dL	60 分
血漿アルドステロン院内	0.5	血漿	B	CLEIA 法	10.4～142.3	pg/mL	60 分
活性型レニン濃度 ARC 院内	0.5	血漿	B	CLEIA 法	2.5～21.0	pg/mL	60 分
フェリチン	0.2	血清	A,E,S,T	ラテックス比濁法	男性：15.0～160.0 女性：10.0～60.0	ng/mL	60 分
インスリン（IRI）	0.4	血清	A,E,S,T	CLEIA 法	1.0～11.0	μIU/mL	60 分
C ペプチド（CPR）	0.4	血清 部分尿 蓄尿	A,E,S,T, U	CLEIA 法	血清：1.00～1.60 部分尿：基準値なし 蓄尿：48.40～101.00	血清・ 部 分 尿 ng/mL 蓄 尿 μg/day	60 分
i-PTH	0.5	血清	A,E,S,T	CLEIA 法	10.0～65.0	pg/mL	60 分
LRG	0.2	血清	A,E,S,T	ラテックス凝集比濁法	16.0 未満	μg/mL	60 分
シクロスポリン	2	全血	R	HEIA 法		ng/mL	80 分
タクロリムス	2	全血	R	HEIA 法		ng/mL	80 分
メトトレキサート	0.2	血清	A,E	HEIA 法	48 時間値：1 以下 72 時間値：0.1 以下	μmol/L	60 分
バンコマイシン	0.2	血清	A,E	HEIA 法	10～20	μg/mL	60 分
PIVKA-II	0.4	血清	A,E,S,T	CLEIA 法	40 以下	mAU/mL	60 分
HB s 抗原	0.9	血清	A,E,S,T	CLEIA 法	0.005 未満	IU/mL	90 分
HB s 抗体	0.3	血清	A,E,S,T	CLEIA 法	10.0 未満	mIU/mL	60 分
HCV 抗体	0.5	血清	A,E,S,T	CLEIA 法	1.0 未満	C.O.I	90 分
HIV 抗原・抗体	0.5	血清	A,E,S,T	CLEIA 法	1.0 未満	C.O.I	90 分
梅毒 TPLA	0.5	血清	A,E,S,T	ラテックス比濁法	10.0 未満	U	60 分
梅毒 RPR	0.2	血清	A,E,S,T	ラテックス比濁法	1.0 未満	U	60 分
コロナ迅速抗原	綿棒	咽頭拭い液	F	CLEIA 法	0.87 未満	pg/mL	60 分
浸透圧	1.0	血清 血漿 尿	A,E,S,T, U	氷点降下法	血清：270～290 尿：50～1300	mOsm/kg ・H2O	40 分
ICG（15 分停滯率）	1.0	血清	A	光透過法	0～10	%	60 分
ICG（消失率）					0.168～0.206		60 分
pH（血液ガス）	2	全血	M,N	電極法	動脈血 7.350～7.450		5 分

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	18 / 69 頁

					静脈血 7.320～7.430		
検査項目	検体量 mL	材料	容器 区分	検査方法	基準範囲・ 臨床判断値	単位	所要 時間
PaCO ₂ （血液ガス）	2	全血	M,N	電極法	動脈血 32.0～48.0 静脈血 38.0～54.0	mmHg	5 分
PaO ₂ （血液ガス）	2	全血	M,N	電極法	動脈血 83.0～108.0 静脈血 23.0～48.0	mmHg	5 分
Hb（血液ガス）	2	全血	M,N	吸光度法	男性：13.5～17.5 女性：12.0～16.0	g/dL	5 分

※検体採取後保冷して速やかに検査室へ搬送してください。

4.6.2 容器一覧

容器区分	ラベル名（抗凝固剤等）	容器	検査材料	備考
A	桃_ブレイン管 （ブレイン分離剤入り）		血液（生化学・外注、腫瘍マーカー、浸透圧、トロポニン、ICG、薬物など）	血液 6.0 mL 採血し、速やかに転倒混和してください。 複数項目の依頼でも院内実施項目であれば血液 6.0 mL で検査可能です。 ヘマトクリット値が高く、検査が難しい場合は、再採血または検査優先順位を問い合わせる場合があります。
S	桃_ブレイン管 （ブレイン分離剤入り）		血液（生化学・外注、腫瘍マーカー、浸透圧、トロポニン、薬物など）	血液 600 μL 採血し、速やかに転倒混和してください。 年齢・項目数によって 1 本では足りないため、採血本数が複数になります。 ヘマトクリット値が高く、検査が難しい場合は、再採血または検査優先順位を問い合わせる場合があります。
E	桃_ブレイン管 （ヘパリン Li 入り分離剤有）		血液（生化学、透析後の生化学検査など）	血液 6.0 mL 採血し、速やかに転倒混和してください。 複数項目の依頼でも院内実施項目であれば血液 6.0 mL で検査可能です。 ヘマトクリット値が高く、検査が難しい場合は、再採血または検査優先順位を問い合わせる場合があります。 ※ 外注がある場合は A の桃_ブレイン管も採血してください。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	19 / 69 頁

容器区分	ラベル名 (抗凝固剤等)	容器	検査材料	備考
T	桃_ブレイン管 (ヘパリン Li 入り分離剤有)		血液 (生化学、透析後の 生化学検査など)	血液 600 μ L 採血し、速やかに転倒混和 してください。 年齢・項目数によって 1 本では足りない ため、採血本数が複数になります。 ヘマトクリット値が高く、検査が難しい 場合は、再採血または検査優先順位を 問い合わせる場合があります。 ※ 外注がある場合は S の桃_ブレイン管 も採血してください
I	毛细管 (ヘパリン処理)		血液 (小児 T-BIL)	血液 77 μ L 採血してください。採血し たら速やかに提出してください。 搬送中、検体が破損しないように保護し てください。強い負荷の遠心をするので 破損してしまう可能性があります。 可能でしたら 2 本採血してください。
U	部尿生化学		尿 (尿化学など)	採取された尿は均一に混和してから速や かに分注してください。 5.0 mL 以上をスピッツに分注してくだ さい。
V	蓄尿ボトル		尿 (尿化学、C-ペプチド など)	採取された尿は均一に混和してから分注 してください。 50.0 mL 以上をスピッツに分注してくだ さい。 身長・体重・蓄尿量を記載してくださ い。 C ペプチド (蓄尿) は先に尿 C-ペプチ ド安定化剤を入れてから蓄尿してくださ い。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	20 / 69 頁

容器区分	ラベル名（抗凝固剤等）	容器	検査材料	備考
G	灰_血糖用 (フッ化ソーダ)		血液（血糖、HbA1c）	血液 2.0 mL 採血し、凝固しないように採血後、速やかに転倒混和してください。
W	灰_血糖用 (フッ化ソーダ)		血液（血糖、HbA1c）	血液 600 μ L 採血し、凝固しないように採血後、速やかに転倒混和してください。
H	紫_NH3 用 (EDTA-2K)		血液（NH3）	血液 2.0 mL 採血し、凝固しないように採血後、速やかに転倒混和してください。 NH3 は採血したら速やかに提出してください。
R	紫_シクロ・タクロ (EDTA-2K)		血液（シクロスポリン、 タクロリムス）	血液 2.0 mL（線まで）採血し、凝固しないように採血後、速やかに転倒混和してください。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	21 / 69 頁

容器区分	ラベル名（抗凝固剤等）	容器	検査材料	備考
M	ガス用シリンジ_全血 (ヘパリンシリンジ)		血液（血液ガス：静脈血、動脈血、臍帯血）	採血後、採取時刻をラベルに記入してください。 採取時刻が不明な場合や採取後 30 分以上経過したものは参考値報告となります。 速やかに提出してください。
N	ガス用シリンジ_全血 (毛细管)		血液（血液ガス：静脈血、動脈血、臍帯血）	採血後、採取時刻をラベルに記入してください。 採取時刻が不明な場合や採取後 30 分以上経過したものは参考値報告となります。 速やかに提出してください。
B	黄_EDTA2Na5 (EDTA-2Na)		血液（BNP、血漿コルチゾール院内、血漿アルドステロン院内、活性型レニン濃度 ARC 院内など）	血液 5.0 mL 採血し、凝固しないように採血後、速やかに転倒混和してください。 ヘマトクリット値が高く、検査が難しい場合は、再採血または検査優先順位を問い合わせる場合があります。 活性型レニン濃度 ARC 院内は冷所にて保管すると値が高くなることがあるので、速やかに検査室へ提出してください。
F	コロナ迅速抗原_鼻咽頭 (FLOQ スワブ)		コロナ迅速抗原	鼻咽頭ぬぐい液または鼻腔ぬぐい液を採取してください。 採取後は速やかに検査室へ提出してください。 感染性のある検体のため、指定の容器に採取し、必ずビニール袋に入れて搬送してください。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	22 / 69 頁

4.7 血液検査

4.7.1 項目一覧

検査項目	採取量 mL	材料	容器	検査方法	基準範囲・ 臨床判断値	単位	所要 時間
赤血球数 (RBC)	2.0	全血	H,D,J	シーフロー DC 検出法	男性: 4.35～5.55 女性: 3.86～4.92	10 ⁶ /μL	15 分
白血球数 (WBC)				フローサイトメトリ法	3.3～8.6	10 ³ /μL	
血色素 (Hb)				SLS-ヘモクロビン法	男性: 13.7～16.8 女性: 11.6～14.8	g/dL	
ヘマトクリット (Ht)				シーフロー DC 検出法	男性: 40.7～50.1 女性: 35.1～44.4	%	
血小板 (PLT)				シーフロー DC 検出法と フローサイトメトリ法併用	158～348	10 ³ /μL	
網赤血球数 RET)				フローサイトメトリ法	5～25	‰	
末梢血液像 NEUT(%)	2.0	全血	H,J	フローサイトメトリ法	38.5～80.5	%	15 分
LYMP(%)					16.5～49.5		
MONO(%)					2.0～10.0		
EOSINO(%)					0.0～8.5		
BASO(%)					0.0～2.5		
末梢血液像目視 (Stab)	2.0	全血	H,J	鏡検法	0.5～6.5	%	1 日
(seg)					38.0～74.0		
(Lymph)					16.5～49.5		
(Mono)					2.0～10.0		
(Eosino)					0.0～8.5		
(Baso)					0.0～2.5		

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	23 / 69 頁

検査項目	採取量 mL	材料	容器	検査方法	基準範囲・ 臨床判断値	単位	所要 時間
プロトロンビン時間 (PT)	2.7 (1.8)	血漿	C	凝固時間法 粘度検出法	11.0～13.0 80～120 0.80～1.20	秒 % INR	40 分
APTT				凝固時間法 粘度検出法	25.0～40.0	秒	
フィブリノゲン定量				トロンビン時間法 粘度検出法	200～400	mg/dL	
アンチトロンビン活性				合成基質法	80～130	%	
FDP 定量				ラテックス免疫学的測定法	5.0 未満	μg/mL	
D ダイマー				ラテックス免疫学的測定法	1.0 未満	μg/mL	
赤血球沈降速度 (ESR)	1.12 mL (下限 1.0 mL～上限 1.3 mL)	全血	Q	Westergren 法	男性:2～10 女性:3～15	mm/時	40 分
出血時間	—	耳朶血	—	Duke 法	1～5	分	—

検査項目	検体量 mL	材料	容器 区分	検査方法	基準範囲・ 臨床判断値	単位	所要 時間
T 細胞 %	2	全血	H	フローサイトメトリ法	58.0～84.0	%	1 日
B 細胞 %	2	全血	H	フローサイトメトリ法	5～24	%	1 日
T 細胞数	2	全血	H	フローサイトメトリ法	基準値なし	細胞数/μL	1 日
B 細胞数	2	全血	H	フローサイトメトリ法	基準値なし	細胞数/μL	1 日
NK 細胞	2	全血	H	フローサイトメトリ法	基準値なし	細胞数/μL	1 日
CD4%	2	全血	H	フローサイトメトリ法	25～54	%	1 日
CD8%	2	全血	H	フローサイトメトリ法	23～56	%	1 日
CD4/CD8	2	全血	H	フローサイトメトリ法	0.40～2.30	—	1 日
NK 細胞数	2	全血	H	フローサイトメトリ法	基準値なし	細胞数/μL	1 日
CD4 数	2	全血	H	フローサイトメトリ法	基準値なし	細胞数/μL	1 日
CD8 数	2	全血	H	フローサイトメトリ法	基準値なし	細胞数/μL	1 日
CD34 定量	2	自家末梢 血幹細胞	H	フローサイトメトリ法	基準値なし	細胞数/μL	1 日

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	24 / 69 頁

4.7.2 容器一覧

容器区分	ラベル名（抗凝固剤等）	容器	検査材料	備考
H	紫_赤白用 (EDTA-2K) 紫_フローサイト用 (EDTA-2K)		血液（血算、血液像） 血液（フローサイトメ トリー検査）	血液 2.0 mL 採血し、凝固しないよう に採血後、速やかに転倒混和してく ださい。
J	紫_赤白用 (EDTA-2K)		血液（血算、血液像）	血液 500 µL 採血し、凝固しないよう に採血後、速やかに転倒混和してく ださい。
C	黒_凝固用 (3.2 %クエン酸)		血液（凝固）	血液 2.7 mL もしくは 1.8 mL (線まで) 採血し、凝固しないよう に採血後、速やかに転倒混和して下 さい。
Q	赤沈専用 (3.8 %クエン酸)		血液（赤沈）	血液を 1.12 mL（下限 1.0 mL～上限 1.3 mL）で採血し、凝固しないよう に採血後、速やかに転倒混和して 下さい。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	25 / 69 頁

容器区分	ラベル名（抗凝固剤等）	容器	検査材料	備考
D	紫_赤白用 (ヘリンナトリウム)		血液 (EDTA 凝集用血算)	<p>血液 5.0 mL 採血し、凝固しないように採血後、速やかに転倒混和してください。</p> <p>※ ラベルの左上に集マークのある人は H 紫_赤白用と一緒に 2 本採ってください。</p> <div> <div> 集 赤白用:全血 本内科 マツナミレイコ 松波 零子 0000000 全血 一般検 </div> <div> 0855 1/1 女 2m </div> </div>  <div> 血算 血像 09-03 </div>

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	26 / 69 頁

4.8 一般検査

4.8.1 項目一覧

検査項目	検体量 mL	材料	容器 区分	検査方法	基準範囲・ 臨床判断値	単位	所要 時間
尿定性（比重）	10	新鮮尿	U	屈折率法	1.005～1.030		20 分
尿定性（pH）				試験紙法	4.5～7.5		20 分
尿定性（蛋白）				試験紙法	（－）		20 分
尿定性（糖）				試験紙法	（－）		20 分
尿定性（ケトン体）				試験紙法	（－）		20 分
尿定性（潜血）				試験紙法	（－）		20 分
尿定性（ウロビリノゲン）				試験紙法	（±）		20 分
尿定性（ビリルビン）				試験紙法	（－）		20 分
尿定性（白血球）				試験紙法	（－）		20 分
尿沈渣（赤血球）				鏡検法	5 以下	個/HPF	20 分
尿沈渣（白血球）				鏡検法	5 以下	個/HPF	60 分
尿沈渣（扁平上皮細胞）				鏡検法	1 以下	個/HPF	60 分
尿沈渣（尿細管上皮細胞）				鏡検法			60 分
尿沈渣（尿路上皮細胞）				鏡検法			60 分
尿沈渣（円柱）				鏡検法			60 分
尿沈渣（細菌類）				鏡検法			60 分
尿沈渣（結晶・塩類）				鏡検法			60 分
便中ヘモグロビン	採便容器	便	K1	金コロイド 比色法	陰性		30 分
便中ヘモグロビン	採便容器	便	K2	金コロイド 凝集法	100 未満/（－）	ng/mL	30 分
便中カルプロテクチン	採便容器	便	K2	金コロイド 凝集法	142 未満/（－）	μg/g 便	30 分
便寄生虫検査	採便容器	便	X	鏡検法	（－）		1 日
尿素呼気試験	120 mL/バ ック以上	呼気	呼気バ ック	赤外分光法	2.5 未満	パーミル	10 分

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	27 / 69 頁

検査項目	検体量 mL	材料	容器 区分	検査方法	基準範囲・ 臨床判断値	単位	所要 時間
妊娠反応	2	尿	U	免疫クロマトグラ フ法	(-)		20 分
髄液検査	5	髄液	L	FCM 法 ビロカールレット ト法 ヘキサキナーゼ・ G-6-PDH 法 IFCC 対応 法 電極法	外観：水様性色透明 比重：1.005 細胞数：5 細胞種類：単核球 80～100、多核球 2 ～3 蛋白：8～43 糖：50～75 LDH：25 以下 Cl：120～125	細胞数：/μL 細胞種類：% 蛋白：mg/dL 糖：mg/dL LDH：U/L Cl：mmol/L	60 分
穿刺液（胸水）	10	胸水	L	FCM 法 ビュレット法 BCP 改良法 ヘキサキナーゼ・ G-6-PDH 法 IFCC 対応 法	設定なし	細胞数：/μL 蛋白：g/dL アルブミン:g/dL 糖：mg/dL LDH：U/L	60 分
穿刺液（腹水）	10	腹水	L	FCM 法 ビュレット法 BCP 改良法 ヘキサキナーゼ・ G-6-PDH 法 IFCC 対応 法	設定なし	細胞数：/μL 蛋白：g/dL アルブミン:g/dL 糖：mg/dL LDH：U/L	60 分
穿刺液（関節液）	10	関節液	L	FCM 法 ビュレット法 BCP 改良法 ヘキサキナーゼ・ G-6-PDH 法	細胞数：基準値なし	細胞数：/μL 蛋白：g/dL アルブミン:g/dL 糖：mg/dL	60 分
APR スコア	15μL	血清	A	ラテックス 凝集法	設定なし	点	60 分

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	28 / 69 頁





検査項目	検体量 mL	材料	容器 区分	検査方法	基準範囲・ 臨床判断値	単位	所要 時間
尿中薬物スクリーニング	5	尿	U	イムノクロマト グラフ法	(-)		20 分
コロナ/インフル同時	綿棒	鼻咽頭 ぬぐい 液 鼻腔ぬ ぐい液	F	イムノクロ マト法	陰性		30 分
インフルエンザ抗原	綿棒	鼻腔ぬぐい 液 鼻腔吸引液 咽頭ぬぐい 液	F	免疫クロマ トグラフィ ー法	陰性		30 分
マイコプラズマ抗原	綿棒	咽頭拭 い液	専用ス ワブ	免疫クロマ トグラフ法	陰性		30 分
RS ウイルス抗原	綿棒	鼻腔ぬ ぐい液 鼻腔吸 引液	専用ス ワブ	免疫クロマ トグラフィ ー法	陰性		30 分
アデノウイルス抗原	綿棒	鼻腔ぬぐい 液 鼻腔吸引液 角結膜ぬぐ い液	専用ス ワブ	免疫クロマ トグラフィ ー法	陰性		30 分
A 群 β 溶連菌迅速検 査	綿棒	咽頭ぬ ぐい液	専用ス ワブ	免疫クロマ トグラフィ ー法	陰性		30 分
便中ロタウイルス抗原 ／アデノウイルス抗原	綿棒	便	専用ス ワブ	イムノクロ マト法	陰性		30 分

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	29 / 69 頁

4.8.2 容器一覧

容器区分	ラベル名（抗凝固剤等）	容器	検査材料	備考
U	定性/沈渣 尿中薬物 妊娠反応		尿（尿定性、 尿中薬物スクリー ニング、妊娠反応 など）	採取された尿は均一に攪拌 混和してから速やかに分注 してください。 定性/沈渣の場合は 10 mL 採取してください。 定性/沈渣以外は 5.0mL 以上をスピッツに分注して ください。
K1	便へモ専用容器_便		便中ヘモグロビン	専用の採便ブラシで便の 表面を 4～5 箇所軽く こすり採取してください。 採取日を容器と提出用袋に 記入してください。
K2	便カルプロ専用_院内		便中ヘモグロビン 便中カルプロテク チン	専用の採便ブラシで便の 表面をまんべんなくこすり 採取してください。 採取日を容器と提出用袋に 記入してください。
X	採便容器 (採便容器)		便その他	小指先大の糞便を提出して ください。 採取後は速やかに検査室へ 提出してください。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	30 / 69 頁

容器区分	ラベル名（抗凝固剤等）	容器	検査材料	備考
呼気バッグ	呼気採取バッグ		呼気	検査薬を空腹時に服用するため、検査前は 8 時間以上の絶食が必要です。 検査薬(ユービット錠)の服用前後の呼気バッグを提出してください。
L	滅菌スピッツ (滅菌ポリスピッツ)		髄液、穿刺液	滅菌スピッツのため、取扱に注意してください。
A	桃_プレイン管 (プレイン分離剤入り)		血液 (APR スコア)	血液 6.0 mL 採血し、速やかに転倒混和してください。 複数項目の依頼でも院内実施項目であれば血液 6.0 mL で検査可能です。 ヘマトクリット値が高く、検査が難しい場合は、再採血または検査優先順位を問い合わせる場合があります。
F	コロナ/インフル同時 インフルエンザ抗原		鼻咽頭ぬぐい液 鼻腔ぬぐい液その他	鼻咽頭ぬぐい液または鼻腔ぬぐい液を採取してください。 採取後は速やかに検査室へ提出してください。 感染性のある検体のため、指定の容器に採取し、必ずビニール袋に入れて搬送してください。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	31 / 69 頁

容器区分	ラベル名（抗凝固剤等）	容器	検査材料	備考
マイコプラズマ抗原	マイコプラズマ抗原専用 スワブ（チューブ入）		咽頭ぬぐい液	咽頭ぬぐい液を採取してください。 採取後は速やかに検査室へ提出してください。 感染性のある検体のため、指定の容器に採取し、必ずビニール袋に入れて搬送してください。
RS ウイルス抗原	RS ウイルス抗原専用スワブ		鼻腔ぬぐい液 鼻腔吸引液	鼻腔ぬぐい液、鼻腔吸引液を採取してください。 採取後は速やかに検査室へ提出してください。 感染性のある検体のため、専用スワブを綿棒チューブに入れ、必ずビニール袋に入れて搬送してください。
アデノウイルス抗原	アデノウイルス抗原専用スワブ		咽頭ぬぐい液 鼻腔ぬぐい液 角結膜ぬぐい液	咽頭ぬぐい液、鼻腔ぬぐい液、角結膜ぬぐい液を採取してください。 採取後は速やかに検査室へ提出してください。 感染性のある検体のため、専用スワブを綿棒チューブに入れ、必ずビニール袋に入れて搬送してください。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	32 / 69 頁

容器区分	ラベル名（抗凝固剤等）	容器	検査材料	備考
A 群 β 溶連菌迅速検査	A 群 β 溶連菌迅速検査専用スワブ		咽頭ぬぐい液	<p>咽頭ぬぐい液を採取してください。</p> <p>採取後は速やかに検査室へ提出してください。</p> <p>感染性のある検体のため、専用スワブを綿棒チューブに入れ、必ずビニール袋に入れて搬送してください。</p>
便中ロタウイルス抗原／アデノウイルス抗原	便中ロタウイルス抗原／アデノウイルス抗原専用スワブ		便	<p>便を採取してください。</p> <p>採取後は速やかに検査室へ提出してください。</p> <p>感染性のある検体のため、専用スワブを綿棒チューブに入れ、必ずビニール袋に入れて搬送してください。</p>

4.8.3 注意事項

(1) 尿沈渣において、異型細胞が見られた場合は緊急報告します。

ただし、緊急報告は腎臓内科と腎泌尿器科以外の診療科を対象に報告します。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	33 / 69 頁

5 輸血検査（輸血部）

輸血検査室 内線：51961

5.1 検体受付

(1) 検体受付時間

月曜日～金曜日 8時～17時

土曜日 8時～12時

上記以外の時間および休祝日：日当直者対応

(2) 検体の受付場所

南館 2 階 輸血検査室 で受け付けます。

当直帯は内線 51961 に連絡してください。

5.2 検査依頼：電子カルテ依頼

5.2.1 検査依頼

(1) 患者 ID を入力して、患者情報画面を開きます。

(2) 電子カルテ→「オーダー」→**検体体検査**メニューからオーダーします。

輸血検査は**検体検査**→**7 伝票**→**血液液型・輸血関連項目**の画面

検査依頼方法の詳細については、病院イントラネットの「操作マニュアル」→
「オーダー入力」を参照ください。

(3) 採取日時を選択してください。

(4) 採取材料を選択してください。

(5) 採取場所を選択してください。

a. 採取場所に検体ラベルが発行されます。

b. 該当試験管に検体ラベルを貼り採取してください。

5.2.2 交差試験用検体依頼（血液製剤依頼指示に付随します）

(1) 患者 ID を入力して、患者情報画面を開きます。

(2) 電子カルテ→「オーダー」→血液製剤依頼指示画面よりクロス採血日を入力します。

(3) クロス採血オーダーが起動します。

(4) 採血場所を選択してください。

(5) 採血場所に交差試験用検体ラベルと輸血保存検体ラベルが発行されます。

検査依頼方法の詳細については、病院イントラネットの「操作マニュアル」→
「オーダー入力」を参照ください。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	34 / 69 頁

5.3 輸血検査項目一覧

(1) 輸血検査（生物学的基準範囲無、単位無し）

検査項目	検体量 mL	材料	容器区 分	検査方法	所要 時間
ABO・RhD 血液型検査	2	静脈血	P	カラム凝集法・試験管法	当日（下記 a、b 参照）
新生児 ABO・RhD 血液型	2	静脈血	J	カラム凝集法・試験管法	当日（下記 a、b 参照）
直接クームス	4	静脈血	P	試験管法	当日（陽性の 場合 2 日～3 日）
間接クームス(不規則抗体検査)				カラム凝集法・試験管法	
その他の因子血液型	4	静脈血	P	試験管法	3 日～4 日
亜型検査				試験管法	
トランスフェラーゼ活性				試験管法	
交差試験用検体				カラム凝集法	当日（不規則 抗体陽性の場 合 2 日～3 日） （下記 c～e 参 照）
輸血保存検体	2	静脈血	O		

- a. ABO・RhD 血液型検査に関しては、検査結果の報告が必要な場合には下記にご連絡ください。なお、検体受付から検査結果を電子カルテへ送信するまで、30 分～40 分程度の時間を要します。

平日日勤帯：内線 51961

夜間・休日当直帯：検査当直内線 51961

- b. 緊急で輸血を必要とする場合は、院内輸血療法マニュアル（病院イントラネット）の「緊急時の血液型未確定患者輸血について」に従い、製剤の準備を行います。参照の上、ご了承ください。
- c. 交差試験用検体採血時には、血液製剤等に係る遡及調査のための輸血保存検体（O 容器）の採血をお願いします。
- d. 採血困難者では、交差試験用検体（P 容器）に採血した血液全てを入れ、輸血保存検体（O 容器）はラベルにキャンセルと記入後、輸血部まで返却して下さい。
- e. 交差試験用検体検査に関しては、輸血依頼を受けてからの検査所要時間となります。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	35 / 69 頁

5.4 容器一覧

容器 区分	ラベル名 (抗凝固剤等)	容器	検査材料	備考
O	茶_プレイン管 (プレイン分離剤入り)		血液（輸血前保存）	4 mL 採血し、直ちに転倒混和してください。 開封厳禁です。
P	血液型 2K (別タイミング) (4ml) (EDTA-2K)		血液（ABO・RhD 血液型など）	凝固しないように、採血後、速やかに転倒混和して下さい。 開封厳禁です。 ABO・RhD 血液型オーダーが同日に 2 つある場合はそれぞれ別のタイミングで採血してください。
P	不規則交差 2K (6ml) (EDTA-2K)		血液（間接クームス、直接クームス、交差血など）	凝固しないように、採血後、速やかに転倒混和して下さい。 開封厳禁です。
J	血液型 2K 新生児 (EDTA-2K)		血液（新生児 ABO・RhD 血液型、）	血液 500 μ L 採血し、凝固しないように採血後、速やかに転倒混和してください。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	36 / 69 頁

6. 細菌検査（迅速尿中抗原検査・遺伝子検査を含む）

細菌検査室 内線：2201、51377

夜間・休日時間帯：検査当直者（内線：51231、51961）

6.1 検体受付

(1) 検体受付時間・場所

受付時間帯	検体提出場所
日勤帯（平日：月～金） 8 時～17 時	南館 2 階 細菌検査室
日勤帯（土曜日） 8 時～12 時	
当直帯（月～金） 17 時～翌日 8 時	南館 2 階 検体検査室・輸血部
当直帯（土曜日） 12 時～随時	
当直帯（日曜・休日） 8 時～随時	

(2) 事前連絡が必要な場合

- a. 至急の検査依頼（グラム染色・抗酸菌染色）がある場合は、細菌検査室へ連絡してください。
- b. 次にあげる特殊な病原体を検出目的とする場合は、検査依頼時に目的菌を指定してください。

MRSA

淋菌

真菌（糸状菌）

レジオネラ菌

百日咳菌

嫌気性菌（*C.difficile* など）

- c. 検体保存は受付から 7 日で検査終了時に廃棄します。検体が必要な場合や追加項目がある場合には、廃棄前に連絡してください。

6.2 検査依頼：電子カルテ依頼

- (1) 患者 ID を入力して、患者情報画面を開く。
- (2) 「オーダ入力」→検査→*11 迅速検査*12 細菌検査*13 抗酸菌検査のメニューからオーダします。検査依頼方法の詳細については、病院イントラネットトップページ→ファイル管理（ルートフォルダ）→中央検査室→検体・細菌検査→細菌検査に関わるご案内 20200302 を参照してください。
- (3) 抗酸菌培養の陽性時は細菌検査室から主治医（または検査依頼医師）へ電話にて報告します。その際に菌種同定や薬剤感受性検査の必要性についてご指示ください。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	37 / 69 頁

6.3 細菌検査・迅速抗原検査・遺伝子検査

(1) 注意事項

- a. 感染性のある検体のため、指定の容器に採取し、必ずビニール袋に入れて一般検査検体と分けて搬送してください。
- b. 検体採取後は、速やかに細菌検査室へ提出してください。
- c. 検体容器には適した依頼ラベルを添付してください。
- d. 依頼ラベルの日付と検体採取日を一致させてください。異なる場合には、正しい日付で依頼を立て直してください。
- e. 検体外側を汚染しないよう、提出前に蓋がきちんと閉まっていることを確認してください。
- f. 検出菌の種類によっては感受性検査を実施できない場合があります。詳しくはお問い合わせ下さい。
- g. 会計処理が必要なため、キャンセルする依頼ラベルは、必ず赤字でバーコード上に「キャンセル」と記入した上で、細菌検査室にラベルを提出するか直接電話連絡（内線番号：2201）してください。

(2) 薬剤感受性判定基準

一般細菌 CLSI M100-28 Ed

カンジダ属 CLSI M60-1st Ed

6.3.1 呼吸器系

(1) 呼吸器系検査（生物学的基準範囲、単位無）

材料	容器名称	所要日数	備考
咽頭ぬぐい液 鼻腔（鼻汁） 後鼻咽頭拭い液 上顎洞 扁桃	カルチャースワブ橙	2 日～4 日	
吸引痰 喀痰 経気管吸引（TTA） 気管支肺胞洗浄液（BALF） 膿（呼吸器由来）	滅菌喀痰容器 滅菌スピッツ 嫌気ポーター	2 日～4 日	(3)注意点参照

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	38 / 69 頁

(2) 検体の品質評価

喀痰の肉眼的評価（Miller&Jones の分類）

表示方法	性状	
M1	唾液、完全な粘液痰	唾液様
M2	粘液痰の中に少量の膿性痰を含む	
P1	膿性部分が 1/3 以下の痰	膿性痰
P2	膿性部分が 1~2/3 の痰	
P3	膿性部分が 2/3 以上の痰	

(3) 注意点

- 喀痰を採取する場合は、口腔内常在菌の影響を少なくするため、うがい後に痰を喀出させることが望ましいです。
- 喀痰検体は、肺の深部から喀出したものが良く、唾液や鼻粘液の混入は避けてください。
- 一般細菌検査では膿性痰が検体として適しています。
- M1 分類に相当する検体は再提出をお願いします。

6.3.2 消化器系

(1) 消化器系検査（生物学的基準範囲、単位無）

材料	容器名称	所要日数	備考
糞便	カルチャースワブ青	2 日～7 日	(2)注意点参照
腹水	嫌気ポーター		
胆汁	嫌気ポーター 滅菌スピッツ	3 日～7 日	胃液は早朝空腹時の採取が望ましい
胃液	滅菌スピッツ 嫌気ポーター		
胃粘膜			
脾液			
十二指腸液			
腸管洗浄液			
膿（消化器由来）			
胃瘻			

(2) 注意点

- 入院後 3 日目以降に発症した下痢症では、*C.difficile* を除き、便培養は実施しません。
特別な目的菌があれば、目的菌を入力してください。
- 糞便検体は、自然排便が望ましく、綿棒による採取はできるだけ避けてください。
- 便が付着したおむつは原則、検査できません。
- CD トキシンの検査は、便を採便容器（白）に採取してください。
カルチャースワブ青では検査できません。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	39 / 69 頁

6.3.3 泌尿器・生殖器系

(1) 泌尿器・生殖器系検査（生物学的基準範囲、単位無）

材料	容器名称	所要日数	備考
中間尿 左分腎尿 右分腎尿 ストマ尿 カテーテル尿（膀胱）	滅菌カップ 滅菌スピッツ	2 日～4 日	(2)注意点参照
尿道分泌物 膣分泌物 子宮内容物 羊水 膿（泌尿・生殖器） 泌尿器系由来材料	カルチャースワブ青 嫌気ポーター 滅菌スピッツ	3 日～7 日	
GBS スクリーニング （膣）	GBS 培地 F	2 日～4 日	

(2) 注意点

- 中間尿は、採取時に雑菌混入を防ぐため尿道口付近を清拭後採取してください。
- 採取前に患者へ、採取方法、注意点等を説明してください。
- 淋菌を検出目的とする場合は初尿を採取し、速やかに提出してください低温厳禁です。
- 尿道にカテーテルが留置されている場合は、適切に消毒した後、サンプルポートから採取してください。
- 採取後は均一に混和し、速やかに滅菌容器へ分注してください。

6.3.4 血液系

(1) 血液系検査

材料	容器名称	所要日数	備考
静脈血	血液培養ボトル（好気用）	4 日～10 日	可能な限り 2 セット 以上採取
動脈血	血液培養ボトル（嫌気用）		
骨髓液	滅菌スピッツ	4 日～14 日	※抗酸菌検査は専用 採血管（要問合せ）

(2) 注意点

- 採取後は、培養ボトルや採血管を緩やかに転倒混和してください
- 血液培養ボトルは採血後 2 時間以内に検査室へ提出してください。冷蔵保存はしないでください。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第6版
	検査案内	QT-採取-0001	40 / 69 頁

6.3.5 穿刺液系

(1) 穿刺液系検査

材料	容器名称	所要日数	備考
髄液	滅菌スピッツ	4日～10日	
胸水 心嚢液 関節液 穿刺液	滅菌スピッツ 嫌気ポーター	4日～10日	穿刺液は、穿刺部分を十分に消毒後、滅菌注射器で穿刺または、切開して採取
その他（穿刺液）	滅菌スピッツ	4日～10日	

(2) 注意点

- a. 髄液検体は冷蔵保存しないでください。

6.3.6 カテーテル・ドレーン系

(1) カテーテル・ドレーン系検査

材料	容器名称	所要日数	備考
カテーテル IVH CAPD 排液 ドレーン排液 PTCD 排液	滅菌スピッツ 嫌気ポーター	4日～10日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検体の乾燥を防ぐため、滅菌生食を少量加える ・ チューブ類は目的とする部位を無菌的に切り取り提出（5 cm 以内） ・ カテーテルは先端 2 cm～3 cm を無菌的に切り取り提出

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	41 / 69 頁

6.3.7 膿・その他

(1) 膿・その他検査

材料	容器名称	所要日数	備考
創傷分泌物 褥創 開放膿 非開放膿 組織 創部（手術部位） 眼由来材料 舌苔 口腔（頬）粘膜 歯肉 耳漏 爪、皮膚 のう胞内容液 水泡内容液 骨、乳汁 その他材料	カルチャースワブ青 嫌気ポーター 滅菌スピッツ	4 日～10 日	・ 検体は、穿刺部分を十分に消毒後、滅菌注射器で穿刺または切開して採取 ・ 開放性膿の採取は、皮膚や潰瘍部の病巣周囲を洗浄・清拭し、病巣部分表層の膿や分泌物を除去した後、新鮮な膿または滲出液を採取 皮膚糸状菌：70%消毒用アルコールで清拭した部位から検体を採取 爪糸状菌：70%消毒用アルコールで清拭し削ってできるだけ爪床にちかい部位を採取

6.3.8 迅速検査・遺伝子検査等

(1) 迅速検査

材料	容器名称	所要時間	備考
尿中レジオネラ抗原検査	滅菌スピッツ	20 分～30 分	
尿中肺炎球菌抗原検査			
マラリア抗原検査	EDTA2Na 採血管	30 分～40 分	発熱時の採血が望ましい
デングウイルス抗原・抗体検査			

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	42 / 69 頁

(2) 遺伝子検査

材料	容器名称	所要日数	備考
新型コロナウイルス LAMP 法	FLOQ スワブ	1 日	(3) 注意点参照
	V 底チューブ		
結核菌 DNA (PCR-CE 法) MAC-DNA (PCR-CE 法)	滅菌喀痰容器	1 日	

(3) 注意点

a. 新型コロナウイルス LAMP 法検査の受付締め切り時間は以下のとおりです。

- ・月～金曜日

鼻咽頭拭い液：午前 10 時 30 分、午後 15 時 30 分

唾液：午前 10 時 00 分、午後 15 時 00 分

- ・土曜日

鼻咽頭拭い液：午前 10 時 30 分、午後 15 時 00 分

唾液：午前 10 時 00 分、午後 15 時 00 分

- ・日祝日（呼び出し対応）

鼻咽頭拭い液：午前 10 時 30 分、午後 15 時 00 分

唾液：午前 10 時 00 分、午後 15 時 00 分

1 日 2 回（午前と午後）検査をします。この時間を過ぎて届いた検体の検査は、次回検査になります（午前であれば午後の検査、午後であれば翌日午前の検査）。

b. 唾液：検体採取前 30 分間は飲水や歯磨きを控えてください。

6.4 容器一覧

検体採取容器（外観）と採取の一般的注意事項については病院イントラネットに記載の「検体採取容器と注意事項 1（第 1 版）」[EM-細菌-4003](#) および「検体採取と注意事項 2（第 1 版）」[EM-細菌-4004](#) を参照のこと。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	43 / 69 頁

7 病理検査（組織検査、細胞診検査、解剖）

病理検査室 内線：3150、51232

7.1 検体受付

(1) 検体受付時間

月曜日～金曜日：8 時～17 時

土曜日：8 時～12 時

(2) 検体の受付場所

北館 1 階 病理検査室

(3) 病理解剖

平日の受付時間内は、病理検査室受付(内線 3150)または病理診断科医師に連絡してください。夜間・休日に解剖の依頼があった場合は、受付時間内に連絡してください。

7.2 検査依頼：電子カルテ依頼

(1) 患者 ID を入力して、患者情報画面を開く。

(2) ナビゲーションマップ→「オーダー入力」→**病理組織診**または**病理細胞診**からオーダーします。

検査依頼方法の詳細については、病院イントラネットの「操作マニュアル」→「オーダー入力」を参照ください。

(3) 依頼書とラベルを発行してください。

a. 採取場所に依頼書と検体ラベルが発行されます。

b. 該当容器に検体ラベルを貼ってください。

1) 組織診断

電子カルテで組織診オーダーを入力し、出力された依頼書と検体を一緒に北館 1 階病理検査室に提出してください。依頼書に臨床経過および所見等を詳細に入力してください。シェーマなども追記するようにしてください。また、複数個、複数部位の検体を提出する場合は、検体との照合のために臓器名や部位、容器 No、提出個数などを必ず記入してください。受付済み検体で追加依頼がある場合は、病理医または北館 1 階病理検査室（内線 3150）へ電話連絡（口頭依頼）してください。

2) 術中迅速診断

電子カルテで術中迅速オーダーを入力してください。依頼書に臨床経過および所見、シェーマなどを記載してください。依頼書と検体を一緒に準備し、北館 1 階病理検査室（内線 3150）へ連絡してください。その際、材料、依頼内容、手術室番号を伝えてください。緊急迅速依頼やシステムダウン時等、やむを得ず電子カルテでオーダー出来ない場合は、北館 1 階病理検査室（内線 3150）へ電話連絡（口頭依頼）し、後ほど電子カルテにてオーダーしてください。

3) 細胞診断

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	44 / 69 頁

電子カルテで細胞診オーダーを入力してください。採取した検体は現場保管せず、出力された依頼書と一緒に北館 1 階病理検査室に提出してください。臨床経過および所見等は詳細に入力してください。依頼書にシエマなども追記してください（時間外に採取した検体は、各部署で冷蔵庫保管し、後日、時間内に北館 1 階病理検査室に提出してください）。

4) 病理解剖

電子カルテで組織診オーダーから解剖オーダーを入力してください。その後、病院イントラネットのファイル管理＞■法人理念・方針・規則・細則＞患者権利等にある「病理解剖に関する御遺族の承諾書」と依頼書を提出してください。

5) 他院からの借用標本またはブロック

電子カルテで組織診オーダーないし細胞診オーダーを入力してください。出力された依頼書と標本またはブロックと一緒に北館 1 階病理検査室に提出してください。

6) 病理標本の貸出

北館 1 階病理検査室（内線：3150）へ電話連絡後、「病理標本貸出依頼書」[RE-病理-0003](#)に必要事項を入力し、依頼用紙を北館 1 階病理検査室へお持ちください。依頼内容により病理医と直接ご相談いただく場合もあります。返却期限は 1 ヶ月を目安に貸し出ししてください。

(4) 検体の保管

- 手術検体の臓器保存期間は 6 ヶ月です。保管期間後は感染性産業廃棄物として適切に処分します。
- 解剖例の臓器保管期間は 1 年です。保管期間後は感染性産業廃棄物として適切に処分します。
- 組織スライドガラスの保管期間は 10 年です。保管期間後は適切に廃棄します。
- 組織ブロックは永久に保管します。
- 細胞診に提出された検体は原則保管しませんが、残検体があった場合は 1 週間、カクタンサンプラーは 1 週間、婦人科液状細胞診（LBC）検体は、外注先（中部パソロジー）にて 1 ヶ月保存後に破棄します。
- 細胞診のスライドガラスの保管期間は 5 年です。保管期間後は適切に廃棄します。

(5) 注意事項

- ウイルス性肝炎、結核、HIV などの感染症の有無は必ず記載してください。
- 検体外側を汚染しないよう、提出前に検体容器の蓋がきちんと閉まっていることを確認してください。また、蓋のできるプラスチックケース等に検体を入れて搬送してください。
- 依頼書、検体、ラベルが揃っていない検体は、原則受け取れない為、検体は必ずすべて揃った状態で提出してください。また、患者情報（ID、氏名など）、検体の種類（採取部位）や数に不一致が認められる場合も受け取り不可となるため、注意してください。
- 結果を急ぐ場合は依頼書にその旨記載するとともに北館 1 階病理検査室受付

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	45 / 69 頁

(内線 3150) までご連絡ください。

- e. 病理組織検体で、固定時間が不適である検体（固定時間は 6～48 時間を推奨）、乾燥した検体は検査不可となる可能性がありますので、注意してください。
- f. 迅速検査では、骨を含む硬性検体、微小材料、結核が疑われる検体は、原則受け取れないため注意してください。
- g. どの検査においてもサンプル量が少ない検体は、検査不可となる可能性があるため注意してください。

7.3 病理診断項目

7.3.1 組織診断

診断項目	提出材料	容器	検査方法	所要日数* ¹
組織診断	10%中性緩衝ホルマリン固定組織	①など	ヘマトキシリン・エオジン染色、免疫染色、遺伝子検査 病理医による検鏡診断	生検検体 7 日～14 日 手術検体 7 日～30 日

※1 脱脂処理や脱灰処理が必要な症例、免疫染色や遺伝子検査が必要な症例に関してはさらに日数を要する場合があります。

7.3.2 術中迅速診断

診断項目	提出材料	容器	検査方法	所要時間
術中迅速診断	未固定組織、細胞診検体	⑤膿盆など	ヘマトキシリン・エオジン染色（凍結切片）、パパニコロウ染色（細胞診検体）、必要に応じて後日、特殊染色や免疫染色 病理専門医による検鏡診断、細胞検査士によるスクリーニング、細胞診専門医による検鏡診断	15 分～45 分 特殊染色や免疫染色を行なった場合、迅速診断が複数件重なった場合はさらに時間を要する場合があります。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	46 / 69 頁

7.3.3 細胞診断検査

診断項目	提出材料	容器	検査方法	所要日数
細胞診断 検査	婦人科材料 (子宮頸腔部・内膜・ 腔断端・外陰部な ど)	③ ④ ⑤	パパニコロウ染色など 細胞検査士によるスクリーニ ング 細胞診専門医による検鏡診断	3 日～7 日 免疫染色など 特殊な検査を 行なった場合 はさらに時間 を要する場合 があります。
	呼吸器材料 (気管支擦過・TBAC など)			
	自排尿、カテーテル 尿など	⑤	パパニコロウ染色、メイギムザ 染色、PAS 反応など。 必要に応じて免疫染色 細胞検査士によるスクリーニ ング 細胞診専門医による検鏡診断	
	体腔液(胸水・腹水 など)			
	胆汁・膵液など			
	穿刺吸引材料 (リンパ節・甲状腺・ 乳腺など)	③、⑤	パパニコロウ染色、メイギムザ 染色、PAS 反応など。 必要に応じて免疫染色 細胞検査士によるスクリーニ ング 細胞診専門医による検鏡診断 甲状腺穿刺の場合は、北館 1 階 病理検査室にご連絡ください	

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	47 / 69 頁

7.3.4 容器一覧

容器 No.	容器	容器名称	検査材料	備考
①		ホルマリン容器	組織検体	検体の大きさに合わせて選択して下さい。左記の容器に入らない大きな検体は、病理室が用意したホルマリン入りタッパーを使用して下さい。（ホルマリン入りタッパーは切り出し室と病理検査室にあります。）
②		カクタンサンプル	喀痰 (3 回採取用)	3 日分の喀痰をこの容器に入れてください。
③		細胞診用固定瓶	婦人科 呼吸器 塗抹標本	固定液（95%エタノール）の液量に注意してください。少ない場合は固定液を足してください。
④		LBC 固定液	婦人科	婦人科検体採取時に使用してください。
⑤		遠沈管	尿 体腔液 髄液 穿刺物	検体量に合わせて選択して下さい。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	48 / 69 頁

7.3.5 病理検体の取り扱い

(1) 組織検体

- a. 摘出した組織は自家融解、乾燥から防ぐため、直ちに 10 %中性緩衝ホルマリン液が入った容器に入れてください（ホルマリン固定時間は 6～48 時間を推奨しています）。やむを得ず直ちにホルマリン固定的に入れられない時は、摘出後速やかに冷蔵庫など 4℃以下で保管し、1 時間以内、遅くとも 3 時間以内に固定を行ってください。ホルマリン固定した組織は室温保存してください。免疫染色や遺伝子検査など未固定で提出する場合は、膿盆またはシャーレ等に入れ、生理食塩水で湿らせたガーゼに包むなどして提出してください（組織変性を招くため、生食に浸漬した状態での提出をしないでください）。その際には必ず北館 1 階病理検査室に連絡してください。
- b. 固定容器には、検体ラベルを貼り、複数部位採取の際には採取部位（臓器名や容器 No.等）も明記してください。

(2) 術中迅速診断

- a. 摘出した組織は未固定の状態で膿盆またはシャーレ等に入れ、生理食塩水で湿らせたガーゼに包むなどして提出してください。その際、組織変性を招くため、生食に浸漬した状態での提出をしないでください。
- b. 細胞診検体は、プレパラートに塗抹後、直ちに固定液（95%エタノール）に浸漬（湿固定）した状態で提出する、若しくは遠沈管等に採取して提出してください。

(3) 細胞診検体

a. 婦人科検体

1) 直接塗抹検体

プレパラートに塗抹後、直ちに固定液（95%エタノール）に浸漬（湿固定）し、固定液に浸漬した状態で提出してください。プレパラートのフロスト面に鉛筆で ID と患者氏名をご記入ください。

2) 液状細胞診検体（LBC）

検体を採取したブラシを LBC 固定液の中で十分に洗浄してください。検体容器に患者ラベルを貼ってください。

b. 呼吸器検体

プレパラートに塗抹後、直ちに固定液に浸漬（湿固定）し、固定液に浸漬した状態で提出してください。プレパラートのフロスト面に鉛筆で患者氏名をご記入ください。洗浄液等を提出する場合は、採取後速やかに提出し、容器には必ず患者ラベルを貼ってください。やむを得ず、すぐに提出できない場合は冷蔵保存してください。

c. 喀痰

カクタンサンプラー等に入れて、検体容器には必ず患者ラベルを貼ってください。カクタンサンプラーには保存液が入っていますので、採取後は室温保存してください。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	49 / 69 頁

い。喀痰の生検体を提出する場合は、微生物の繁殖や細胞変性が進むため、採取後速やかに提出し、容器には必ず患者ラベルを貼ってください。やむを得ず、すぐに提出できない場合は冷蔵保存してください。

d. 尿

自排尿は随時尿を提出し、容器には必ず患者ラベルを貼ってください。採尿された尿を提出用の尿スピッツに分注する際には、均一になるように混和をしてから速やかに分注して下さい。微生物の繁殖や細胞変性が進むため、採取後速やかに提出し、やむを得ず、すぐに提出できない場合は冷蔵保存してください。

e. 体腔液

セルブロック作製や検体保存を希望する場合は、多くの検体量が必要な場合があります。EDTA-2Na もしくはヘパリンを入れて提出してください。ただし、遺伝子検査を希望する場合は、EDTA-2Na を加えて提出してください。検体容器の指定はありませんが、容器には必ず患者ラベルを貼ってください。やむを得ず、すぐに提出できない場合は冷蔵保存してください。

f. 胆汁・膵液など

消化酵素により細胞変性が生じるため、採取後、速やかに、北館 1 階病理検査室に提出し、容器には必ず患者ラベルを貼ってください。やむを得ず、すぐに提出できない場合は冷蔵保存してください。

g. 髄液

髄液は細胞変性速度が極めて早いため、採取後速やかに提出し、容器には必ず患者ラベルを貼ってください。やむを得ず、すぐに提出できない場合は冷蔵保存してください。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	50 / 69 頁

8 生理検査

生理検査室 東館生理検査内線：2828、51280
北館生理検査内線：3238、3237（3238 が繋がらない場合）
北館超音波内線：3205、51229
聴力室内線：6488

※ 循環動態や呼吸状態が不安定な患者は、受け入れが困難な場合があります。

8.1 検査受付

(1) 検査受付時間

月曜日～金曜日：8 時～17 時

土曜日：8 時～12 時

(2) 検査の受付場所

東館 1 階生理検査室、北館 2 階生理検査室、北館 2 階超音波検査室で受付けます。

8.2 検査依頼：電子カルテ依頼

(1) 患者 ID を入力して、患者情報画面を開いてください。

(2) 「オーダー入力」→「画像生理」→「北館 生理検査」「北館 エコー」「東館 生理検査」「東館 エコー」の各メニューから検査依頼をします。

検査依頼方法の詳細については、病院イントラネットトップページ→ファイル管理

（ルートフォルダ）→■操作マニュアル→電子カルテ操作→マニュアル（オーダー編）をご参照ください。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	51 / 69 頁

8.3 生理検査項目

8.3.1 心電図検査

検査項目	実施日時	所要時間	注意事項
12 誘導心電図	月～金曜日 土曜日 12 時迄	5 分～10 分	至急のポータブルは電話で ご連絡ください。
マスター負荷心電図	月～金曜日 土曜日 12 時迄	20 分～30 分	階段の昇降が可能な方のみ。 循環器医師の許可必須。
トレッドミル負荷心電図	月・水・金曜日 の午後枠 土曜日の午前枠	30 分～45 分	循環器医師の許可必須。 検査時、医師の立ち会い必須。
CV-RR	月～金曜日 土曜日 12 時迄	10 分	不整脈がある方は正確な測定が 不可能です。
ホルター心電図	月～金曜日 土曜日 12 時迄	30 分 取外し 10 分	24 時間記録するので他の検査と 重ならない方のみ。 機器の数に限りがあるため当日は 電話でご連絡ください。 装着中、お風呂等に入れません。
24 時間血圧測定			
Heartnote	月～金曜日 土曜日 12 時迄	取付け説明 20 分	電話でご連絡ください。
携帯心電計			
簡易睡眠ポリグラフィー	月～金曜日	30 分	脳波は記録できません。

8.3.2 呼吸機能検査

検査項目	実施日時	所要時間	注意事項
呼吸機能 (VC、FVC、MV、MVV)	月～金曜日 土曜日 12 時迄	10 分～30 分	事前に身長・体重の測定必須。 空気感染有りの患者は受け入れ できません。
呼吸機能 OPE 前検査用 (VC、FVC)			
特殊項目検査 DLco			
特殊項目検査 FRC			
呼気 NO 測定			

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	52 / 69 頁

8.3.3 脳波・神経生理検査、その他検査

検査項目	実施日時	所要時間	注意事項
脳波	月・水・金曜日の午後枠	60 分～90 分	ポータブルは ICU・HCU のみの対応。刺激装置が体内にある方は測定不可です。
神経伝導速度 (MCV、SCV、 DM 重症度判定)		60 分～120 分	刺激装置が体内にある方は測定不可。ペースメーカーが体内にある方は禁忌です。
ABR		60 分	小児は要相談。刺激装置が体内にある方は測定不可です。
ABI・CAVI	月～金曜日 土曜日 12 時迄	20 分	動脈瘤、下肢深部静脈血栓、高頻度の不整脈、末梢循環不全・著しい低血圧などで測定不可です。
精密睡眠ポリグラフィー	月～金曜日	取付け 60 分～90 分	個室入院が必須となります。
皮膚灌流圧測定 (SPP)	月～金曜日 土曜日 12 時迄	30 分～60 分	付随運動で測定不可の場合があります。
Inbody	月～金曜日 土曜日 12 時迄	10 分	ペースメーカー禁忌。透析患者は透析後。点滴後や食事後は 2 時間空けてください。 立位困難な方は測定不可です。 事前に身長測定が必須です。
聴力 (ティンパノグラム・ レフレックス含む)	月～金曜日 土曜日 12 時迄	10 分～30 分	耳垢等があると正確に測定できかねます。
特殊聴力 (語音聴力)	火・木曜日の午後枠	40 分	

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	53 / 69 頁

8.3.4 超音波検査

当日依頼は、電話連絡をお願いします。

検査項目	実施日時	所要時間	注意事項
腹部超音波検査	東館：月～金曜日 土曜日 12 時迄 北館：月・木曜日・ 第 2・第 4 水曜日	30 分	食事制限あり： 注 1～2
乳腺超音波検査	東館：月～金曜日 土曜日 12 時迄 北館：月・木曜日・ 第 2・第 4 水曜日 甲状腺ドクターエコーは 火曜日と金曜日の午前	15 分～30 分	食事制限なし。
甲状腺超音波検査			
体表超音波検査			
血管超音波検査	月～金曜日 土曜日 12 時迄	30 分～60 分	食事制限なし。 (腎動脈エコーは検査 6 時間前 から絶食。水は可。)
心臓超音波検査	月～金曜日 土曜日 12 時迄	30 分～40 分	食事制限なし。
経食道心臓超音波検査	金曜日の午後枠	30 分～45 分	循環器医師に要相談。 食事制限あり。 朝 10 時以降絶飲食。

注 1：検査前 6 時間以上、飲食を控えること（水やお湯の少量の水分摂取は可能）。

注 2：骨盤腔内の観察が必要な場合、検査前 2～3 時間は排尿を控えるようにすること
（膀胱内に尿が充満させるため）。

※ 原則、ポータブルでの超音波検査は実施していません。

※ 超音波検査ベッドへの移動が可能な方、またはストレッチャーで超音波検査室に来られる方が対応可能です。

※ ベッドの方は超音波検査室に入らないため、検査できかねます。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	54 / 69 頁

8.3.5 結果報告について

報告書は検査当日または翌平日に報告します。

検査項目	結果報告
12 誘導心電図	検査終了後
マスター負荷心電図	検査終了後
トレッドミル負荷心電図	
CV-RR	検査終了後
ホルター心電図	報告は判読終了後となりますので、お急ぎの場合は判読技師にご確認ください。判読技師については内線 3238 までお問い合わせください。 解析処理は機器返却後、数日～1 週間程度 : 注 1
24 時間血圧測定	
簡易終夜睡眠ポリグラフィー	機器返却後 1 週間 : 注 1
呼吸機能 (VC、FVC、MV、MVV)	検査終了後
呼吸機能 OPE 前検査用 (VC、FVC)	
特殊項目検査 DLco	
特殊項目検査 FRC	
呼気 NO 測定	
脳波	医師による判読終了後、結果送信されます。 ※ 7 日～10 日 波形は検査終了後、所定の端末で閲覧可能です。
神経伝導速度 (MCV、SCV、DM 重症度判定)	検査終了後
ABR	
精密睡眠ポリグラフィー	検査終了後 1 週間 : 注 1
ABI・CAVI	検査終了後
皮膚灌流圧測定 (SPP)	
Inbody	
聴力 (ティンパノグラム・ レフレックス含む)	
特殊聴力	

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	55 / 69 頁

検査項目	結果報告
腹部超音波検査	報告書は検査当日、画像は検査終了後より閲覧可能です。
乳腺超音波検査	
甲状腺超音波検査	
体表超音波検査	
血管超音波検査	
心臓超音波検査 経食道心臓超音波検査	

注 1：金曜日・土曜日・休前日に行われた検査の結果報告は、翌平日になる場合があります。

9. 採血室

採血室 東館 1 階採血室内線：2829
北館 2 階採血室内線：3240

9.1 採血受付時間

月曜日～金曜日：8 時～17 時

土曜日：8 時～12 時

*採血が 17 時以降(土曜日は 12 時以降)になりそうな場合は、採血室まで電話連絡をしてください。

9.2 採血受付場所

外来患者の採血は、東館 1 階採血室、北館 2 階採血室で受付します。

医事課での受付後、採血室窓口で採血整理券を配布していますので、患者さんにご案内いただくようお願いいたします。

9.3 採血時注意事項

- ・血液培養の採血依頼は事前に連絡をお願いします。また採血時にオーダー用紙とラベルを持ってきてください。
- ・安静時採血は検査室では行っていません。安静時採血を行いたい場合は処置室の予約を入れて、依頼のフリーコメントに安静時採血と記載をしてください。また患者さんの外来受診時に安静時採血についての説明をお願いします。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	56 / 69 頁

10. 夜間・休日緊急検査（当直帯）

当直帯 検体検査内線：51231 輸血検査内線：51961

10.1 検体受付時間

月曜日～金曜日：17 時～翌日 8 時

土曜日：12 時～翌日 8 時

日曜日、休日：8 時～翌日 8 時

- (1) 検査項目は、電子カルテ画面の夜間休日検査に載っている緊急検査が対象です。
- (2) 緊急検査項目以外の検査をオーダーされた場合は、翌日日勤帯で測定します。
尿沈渣に関してはキャンセルさせてもらう事もあります。

10.2 検体受付場所

- (1) 病棟、外来で採取された検体は、南館 2 階中央検査室で受け付けます。
 - (2) 検体を提出するときには、必ず検査当直の内線（検体：51231、輸血：51961）に連絡してから持参してください。
 - (3) 輸血製剤の払い出しも事前に連絡してください。
 - (4) 針刺し事故検体も当直内線に連絡してから、持参してください。
- 針事故検体の提出方法については、「松波総合病院 院内感染対策マニュアル」[EX-病院-0007](#)を参考にしてください。

10.3 依頼方法

電子カルテ→「オーダー」→夜間・休日検査 画面から依頼してください。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	57 / 69 頁

10.4 夜間・休日緊急検査項目一覧

項目	容器	項目	容器	項目	容器
血算	H,J	アンモニア (NH ₃)	H,J	コロナ迅速抗原	F
血液像 (自動解析)		フェリチン	A,E,S,T	コロナインフル同時	F
網状赤血球		TIBC		インフルエンザ抗原	F
総蛋白	A,E,S,T	UIBC		マイコプラズマ抗原	専用スワブ
アルブミン		HbA1C (JDS)	G,W	RS ウイルス抗原	
尿素窒素 (UN)		空腹時血糖		アデノウイルス抗原	
クレアチニン (Cr)		食後血糖		A 群 B 溶連菌迅速検査	
尿酸 (UA)		血清浸透圧	A,E,S,T	尿中レジオネラ抗原検査	L
Na・CL		尿浸透圧	U	尿中肺炎球菌抗原検査	L
K		BNP	B		
カルシウム (Ca)		NT-ProBNP	A,E,S,T		
無機リン (iP)		トロポニン T		尿定性	U
Mg		プロカルシトニン		尿 HCG 定性 (妊娠反応)	
総ビリルビン		HBs 抗原		尿 Amy	
直接ビリルビン		HCV 抗体			
AST		HIV 抗原・抗体		髄液一般	L
ALT		HBs 抗体 (CLEIA)		髄液蛋白定量	
ALP		梅毒反応 RPR		髄液糖	
γ-GTP		梅毒反応 TPLA		髄液 Cl	
Ch-E					
CK				血液ガス	M
CK-MB		PT (プロトロンビン時間)	C	血液型 (ABO+RhD)	P 4ml
LDH (LD)		APTT		不規則抗体スクリーニング	P 6ml
Amy		Fib 定量		交差適合試験	
Glu (ブレイン)		ATIII			
T-CHO		FDP			
TG		D ダイマー			
HDL-C		赤沈	Q		
LDL-C		APR スコア	A,E,S,T		
CRP 定量		尿中薬物スクリーニング	U		

メトトレキサート、バンコマイシンは予約対応ですので夜間・休日に依頼する場合は必ず事前にご連絡ください。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第6版
	検査案内	QT-採取-0001	58 / 69 頁

11. 検体採取手順

11.1 外来検体（診療室内採取）

- (1) 電子カルテから診療室内採取を依頼すると外来診療科のラベルプリンターより、検査のバーコードラベルが出力されます。
- (2) 検査案内・容器一覧で採血容器を確認し、バーコードラベルを貼り準備してください。

詳しくは、「検体採取マニュアル」[QT-採取-0002](#)に則り採血します。

11.2 病棟検体

- (1) 予約採取は、前日検体検査室より病棟に患者検体ラベル付採血管を配布しますが、配布後に依頼した検査や当日依頼検査は、病棟のラベルプリンターより、検査のバーコードラベルが出力されます。
- (2) 検査案内・容器一覧で採血容器を確認し、バーコードラベルを貼り準備してください。病棟に容器がない場合は、南館2階中央検査室まで連絡してください。

11.3 検体採取方法

11.3.1 血液採取

(1) 採血法

「標準採血法ガイドライン」[EX-生理-1003](#)に準じて血液採取を実施してください。

- a. 患者名をフルネームで名乗ってもらう、名乗れない場合は別の方法（付添に聞く、ラベルに表示されている名前を見せる等）で確認し、採血管ラベルの患者名との一致をご確認ください。
- b. 採血実施（検体量、抗凝固剤等に注意する）。採血の際は手袋を着用し、患者一人毎に交換してください。採血ホルダーは患者一人につき1個使用し、その都度適切に廃棄してください。
- c. 採血後、採血部位をしっかりと指で押さえるように患者に指示してください。
- d. 検体は搬送まで、検査案内や容器一覧の案内に従い所定の場所に保管してください。

(2) 採血前に処置が必要な検査項目の手順

a. グルコース負荷試験（75gOGTT）（検査室用）

1) 実施前の準備

- ① トレーランGが前日までに依頼科より届く。
- ② トレーランGが届いたら冷蔵庫で冷やす。

2) 必要物品

- ① タイマー
- ② 栓抜き
- ③ 血糖負荷試験タイムスケジュール用紙

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第6版
	検査案内	QT-採取-0001	59 / 69 頁

④トレランG液75g 1本

⑤紙コップ

⑥採血管・採尿カップ（※採尿がある場合）、採血物品

3) 患者・家族への説明・確認事項

①起床後から絶飲食の確認（コップ1杯ほどの水は可能だが、それ以上飲水した場合は依頼医に確認する。）を行う。

②検査は2～3時間ほどかかる事の説明を行う。

③負荷試験中は絶飲食でガム、喫煙、激しい運動の禁止の説明を行う。

④薬剤（トレランG）投与後に気分不良になった場合は、検査室または近くのスタッフに申し出て頂くように説明を行う。

4) 手順

①（患者様が）検査室の受付時に3)①の確認を行い、問題がなければ採血管・採尿コップを発行し、負荷前の採尿があれば負荷前の採尿カップを渡し、採尿をして頂く。

②採血の順番がきたら、3)①～④の説明・確認を行う。

③3)①～④の説明・確認に問題がなければ負荷前の採血を行う。

④タイマーのセットを行う。

⑤薬剤（トレランG）を紙コップに移し、薬剤（トレランG）投与を行う。

⑥薬剤（トレランG）投与直後にタイマーをstartする。

⑦血糖負荷試験タイムスケジュール用紙に患者情報、採血・採尿時間などを記入する。

⑧薬剤（トレランG）投与後に次回採血・採尿（※採尿がある場合）時間の説明を行う。また、再度3)③～④の説明を行う。血糖負荷試験タイムスケジュール用紙を渡し、次回採血・採尿時間の5分前に受付に来て頂くように説明する。

⑨以後、依頼された負荷時間通りに採尿（※採尿がある場合）後採血を行う。

⑩負荷試験終了後体調を確認する。

本日はグルコース負荷試験を行ったため、甘いものは通常より控えて、水分を多く摂取するように説明を行う。

⑪次の場所の案内を行う。

b. グルコース負荷試験（75gOGTT）（看護部用）

1) 看護部手順書を参照。

c. ACTH負荷試験

1) 看護部手順書を参照。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	60 / 69 頁

d. レニン・カテコールアミン・アルドステロン・コルチゾール等の30分安静採血

1) 看護部手順書を参照。

11.3.2 尿採取

(1) 尿は清潔な容器で採取してください。尿試験紙法における最も一般的な採尿法は自然排尿で、採尿の際には前半の尿は捨てて中間尿を採取してください（できるだけ速やかに検査を行い、尿の変質や腐敗による結果の過誤を防ぐため）。特に、女性の採尿の場合は、膣・外陰部由来の混入物を避けるため、局所を脱脂綿またはガーゼなどで清拭後、中間尿を採取してください。

(2) 採尿方法での留意事項

- a. 尿の種類は、検体ラベルに記載されています。随時尿、中間尿以外（早朝尿、初尿、カテーテル尿など）の採尿方法を確認して採取してください。
- b. 採尿前に尿道口を清拭することが望ましいです。
- c. 24時間蓄尿では検査目的により防腐剤や保存剤を使用することがあります。
- d. 採尿後は速やかに検査室に提出してください。
- e. 採尿された尿を提出用の尿スピッツに分注する際には、均一になるように混和をしてから速やかに分注して下さい。

11.3.3 便採取

便中ヘモグロビン、便中カルプロテクチン検査の場合は、専用の採便ブラシで便の表面をこすり採取してください。その他の検査については「検査案内」[QT-採取-0001](#)をご確認ください。

11.3.4 細菌検査材料採取

検体はなるべく無菌的に採取し、採取後は速やかに南館 2 階中央検査室に提出してください。

11.3.5 複数の検査室（細菌と病理など）に提出が必要な検体

検体は、なるべく検体ラベルごとに分けて採取してください。一つの検体で複数の検査室がまたがる場合は、依頼された検体ラベルすべて検体とともに提出し、搬送した検査室の受付でお問い合わせください。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	61 / 69 頁

12. 検体の提出、搬送

検体搬送方法には下記の 2 通りあります。

12.1 手搬送

検体を搬送する場合は、必ず検体搬送用容器（バッグ等）を用い、検体の紛失、破損がないように注意してください。また、個人情報の保護のため、搬送用容器は中の検体の患者名が外から見えないようにしてください。細菌検査の検体は感染防止の観点からビニール袋に入れて提出してください。

12.2 気送管（エアシュータ搬送）

気送管で搬送可能な検体は、未開府の採血管と汚染のない密閉された容器のみです。専用の気送子にて検体を提出してください。汚染の恐れがある検体は、袋等に入れて提出してください。細菌検査の検体は感染防止の観点からビニール袋に入れて提出してください。

13. 検体受付手順

13.1 受付場所

検体の受付場所及び受付時間は、各検査室の案内ページに記載しています。

13.2 検査受入不可基準

以下の検査は実施できませんので、再提出・再検査または依頼キャンセルとなります。

13.2.1 検体のラベル表示不良

- (1) ラベルがない検体
- (2) 2 名以上の氏名が記載されたラベルが貼付された検体
- (3) 依頼内容（検査材料違い、日付違い等）と検体ラベルの不一致

13.2.2 検体の不良

- (1) 依頼内容と採血容器が一致していない検体
- (2) 検体量の過不足で検査に適さない検体
- (3) 抗凝固剤入りの採血管で凝固している検体
- (4) 指定された時間に採取又は提出できなかった検体

13.2.3 その他

- (1) 著しく血液等で汚染された検体
- (2) 血液型検査履歴がない患者において ABO・RhD 血液型検査 2 回を同時採血した検体

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	62 / 69 頁

13.2.4 生理検査項目

- (1) 患者の協力が得られない場合
- (2) 飲食不可検査で飲食した場合

※ 検査実施が困難な場合は、依頼医にその都度ご相談させていただきます。

13.2.5 細菌検査

- (1) 量不足の検体
- (2) 指定外の未滅菌容器で採取された検体
- (3) 喀痰において M&J 分類で M1 に該当する検体

13.3 輸血検査検体採血時および提出時の注意

13.3.1 検体採血時

- (1) 当院での血液型検査履歴がない患者の血液型検査 2 回をを同日に提出する際は、採血者を変え、採血時間をずらして採血してください。
- (2) 交差試験用検体採血時には、血液製剤等に係る遡及調査のための輸血前検体保存（O 容器）の採血をお願いします。
- (3) 採血困難患者では、交差試験用検体（P 容器）で輸血前検体保存を行います。
輸血前検体保存（O 容器）はラベルにキャンセルと記入後、輸血部まで返却してください。

13.3.2 検体提出時

- (1) 交差試験用検体検査に関しては、輸血依頼を受けてからの検査所要時間です。

13.2.3 受入検体取り扱いおよび保管について

- (1) 受入れた検体は、検査担当者に引き渡され、所定の検体置き場（室温）に保管してください。
- (2) 検体置き場は、検査室のセキュリティ区画内であり、破損や盗難から保護した環境とします。
- (3) 検体置き場の検体は、密栓して蒸発から保護し、検査終了後検体用冷蔵庫に保管します。
- (4) 交差試験用検体は、採血日から 3 日間有効です。

14. 追加検査の依頼手順

依頼検体が、保存期間内にあり、残量があれば追加検査可能です。詳細は、担当する検査室に問い合わせをしてください。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	63 / 69 頁

14.1 検体保存期間一覧

検体保存期間一覧

	検体種類	保存期間	保存温度
一般検査	尿（定性等）	当日（16 時まで）	18 ℃～28 ℃
	髄液	1 週間	2 ℃～8 ℃
	便	当日（15 時まで）	18 ℃～28 ℃
	体腔穿刺液	1 週間	2 ℃～8 ℃
血液検査	血算	2 日間	2 ℃～8 ℃
	凝固	2 日間	2 ℃～8 ℃
	末梢血液像標本	3 ヶ月	18 ℃～28 ℃
	骨髓標本	5 年	
	骨髓未染色標本	1 ヶ月	18 ℃～28 ℃
生化学・血清検査	血清検体	1 週間	2 ℃～8 ℃
	尿生化学	1 週間	2 ℃～8 ℃
	保存依頼検体	3 ヶ月	－20 ℃以下
	血中薬物濃度	1 週間	2 ℃～8 ℃
	血糖・HbA1c	2 日間	2 ℃～8 ℃
	BNP	2 日間	2 ℃～8 ℃
輸血検査	交差試験用	1 週間	2 ℃～8 ℃
細菌検査	一般細菌・抗酸菌（元検体）	1 週間	2 ℃～8 ℃
	抗酸菌培養株	外部委託先 3 ヶ月	2 ℃～8 ℃
	染色標本	1 ヶ月	18 ℃～28 ℃
病理検査	組織診手術検体	6 ヶ月	18 ℃～28 ℃
	組織ブロック	永久	18 ℃～28 ℃
	細胞診検体（一般）	原則保管なし（残検体がある場合 1 週間）	2 ℃～8 ℃
	細胞診検体（蓄痰）	1 週間	2 ℃～8 ℃
	細胞診婦人科液状検体（LBC）	1 ヶ月保存 （外注先にて）	18 ℃～28 ℃

※保存日数は採血日を含みます。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第6版
	検査案内	QT-採取-0001	64 / 69 頁

15. 患者の同意

15.1 通常検査

検査を実施する場合は、医師によるインフォームドコンセントが必要です。検査室では、患者が通常の検査手順及び採血手順に従う場合は、同意が得られていると解釈します。

15.2 侵襲的検査

より侵襲的で特別な手順（経食道心臓超音波検査等）、又は合併症のリスクが高くなる手順では、より詳細な説明を必要とします。

15.3 染色体検査・遺伝子検査等

委託検査において、患者さんの臨床情報及び家族歴を公開することが求められる場合は、検査の同意書が必要になることがあります。染色体検査や遺伝子検査等をご依頼の場合は、検体検査室にお問い合わせください。

16. アドバイスサービスの案内

検査の依頼および検査結果の臨床アドバイスに関する問い合わせ先は、各検査室受付に問い合わせください。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	65 / 69 頁

17 緊急報告値報告手順

17.1 緊急報告値一覧

◎ 緊急報告値の設定・・・即刻治療が必要になるような、基準範囲を大きく外れた値及び医師への緊急報告を要する異常な検査結果です。

検査項目	緊急異常値/パニック値		
	以下	以上	単位
Na	125	155	mmol/L
K	2.5	5.7	mmol/L
Ca	5.0	12.0	mg/dL
AST	下限値無し	500	U/L
ALT	下限値無し	500	U/L
LD	下限値無し	1200	U/L
CK	下限値無し	800	U/L
CK-MB	下限値無し	200	ng/mL
UN	下限値無し	50.0	mg/dL
CRE	下限値無し	5.00	mg/dL
Glu	50	500	mg/dL
PT-INR	下限値無し	3.5	
バンコマイシン	下限値無し	50.0	μg/mL
メトレキサート	下限値無し	1.00	μmol/L
白血球数	1.5×10^3	20.0×10^3	/μL
ヘモグロビン	5.0	上限値無し	g/dL
Ht 値	15.0	上限値無し	%
血小板数	30×10^3	上限値無し	/μL
血液像	初検で Blast 又は異常細胞が 1 個でも見られた場合		
	初検で破砕赤血球、球状赤血球、涙滴赤血球が 1 % 以上見られた場合		

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	66 / 69 頁

検査項目	緊急異常値
塗抹鏡検	①検体の塗抹鏡検が陽性の場合 対象検体：血液・髄液・カテ先・胸水・関節液・抗酸菌塗抹検体
培養	②細菌の発育を認めた場合 対象検体：血液・髄液・カテ先・胸水・関節液
同定	③特定の菌が検出された場合 対象菌： VTEC（ベロトキシン産生大腸菌） <i>Neisseria meningitidis</i> 結核菌（PCR 検査を含む） クロストリディオイデス ディフィシル（CD トキシン検出時）
薬剤感受性	④耐性菌が検出された場合 対象菌： MDRP（多剤耐性緑膿菌） VRE（バンコマイシン耐性腸球菌） MDRA（多剤耐性アシネトバクター） CRE（カルバペネム耐性腸内細菌）
迅速検査	⑤迅速検査で陽性の場合
心電図	<p>以下の場合は、症状の有無を問わず依頼医に報告します。 心電図の変化がなく、症状がある場合も同様の対応となります。</p> <p>①心室細動、心室頻拍 ②急性心筋梗塞、異型狭心症が疑われる ST 上昇 ③胸部症状がある虚血性 ST 低下 ④危険な期外収縮（RonT、ショートラン） ⑤高度頻脈（>140）、高度徐脈（<40） ⑥洞停止、洞房ブロック（3 秒以上） ⑦完全房室ブロック ⑧Mobitz II 型房室ブロック ⑨著明な QT 延長（QTc 550 msec 以上、500 msec 以上+VPC 頻発）</p>
ホルター心電図	<p>以下の場合は直ちに依頼医（不在時は循環器内科医）に連絡します。</p> <p>①心拍数 200 以上の頻脈 ②心拍数 30 以下の徐脈 ③4 秒以上のポーズ（洞停止、洞房ブロックなど） ④心室期外収縮 5 連発以上 ⑤異型狭心症を疑う ST 上昇 ⑥著明な QT 延長（QT：550 msec 以上） ⑦その他連絡したほうがいいと判断した場合（高度房室ブロックなど）</p>

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	67 / 69 頁

検査項目	緊急異常値
脳波	部分性てんかんから全般性てんかんに広がりのある大発作を認めた場合
心臓超音波	超音波検査所見上、以下が疑われる場合 ①強い胸痛に伴う疾患：急性心筋梗塞、急性大動脈解離、 急性肺動脈血栓塞栓症、急性心筋炎 ②呼吸困難・起座呼吸 ③心不全の急速増悪 ④その他：心破裂、心停止、急性心タンポナーデ、感染性心内膜炎、 人工弁機能不全
腹部超音波	①放置すれば重篤な全身症状を呈する急性腹症：代表的な疾患として、 急性膵炎、上腸間膜動脈閉塞、腹部大動脈破裂、大動脈解離、 消化管穿孔、腸管壊死、腹腔内出血などが超音波検査所見上、疑われる 場合 ②初回指摘や鑑別診断に挙がっておらず、早急な対応が求められるもの
体表超音波	特になし
乳腺超音波	特になし
甲状腺超音波	特になし
頸動脈超音波	初回指摘の大動脈解離、動脈瘤、脳塞栓症の原因となるような 動脈・ステント内異常構造物(不安定プラーク、血栓、腫瘍)など
下肢静脈超音波	初回指摘の膝窩静脈より中枢側への広範囲の静脈血栓、 同部位の血栓により血管の閉塞が疑われる場合、可動性のある血栓
下肢動脈超音波	膝窩動脈より中枢の急性閉塞かつ症状がある高度な狭窄・閉塞

※ 既知の異常値を除き、医師からの依頼及び診察状況等を考慮した上で、ご連絡させていただきます。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	68 / 69 頁

17.2 緊急報告値の報告

測定値が緊急報告値を超えた場合は依頼医に連絡します。依頼医が不在の場合は担当医に連絡します。~~以下の報告順に従い連絡します。~~

報告順位

・日勤帯の平日（8：00～17：00）

①依頼医師または、主治医 ②担当医師 ③上級医師 ④所属長医師

・時間外（当直）および土日祝日（日勤）

①依頼医師または、主治医 ②当直責任医師

※ 血液培養陽性報告については、当直責任医師へ報告します。

18. 検査結果の変動因子

生理的変動要因	変動因子	検査項目
遺伝的要因	①性差	男＞女：尿酸、クレアチニン、CK、HGB、Fe 女＞男：HDL-C、クレアチン、LH、FSH
	②人種差	欧米人＞日本人：TC、尿酸
	③血液型	ALP アイソザイム
時間的要因	①加齢	新生児期：AST、ALT、LD↑、AMY、TG、TC↓↓ 幼少児期：ALP、IP↑
	②日内変動	早朝高値：Fe、ACTH、コルチゾール 夜間高値：プロラクチン、成長ホルモン、TSH、ADH
生活環境要因	①食事	食後↑：グルコース、TG、インスリン 食後↓：遊離脂肪酸、IP
	②飲酒	γ-GT、TG、ALT、HDL-C、MCV↑
	③喫煙	HGB、RBC、WBC、CEA
	④運動	CK、LD、AST、乳酸↑、IP↓
	⑤薬剤	γ-GT、ALP
	⑥妊娠	尿酸、ALP、TC、LD、LAP、TG、AFP、CA125↑ 総蛋白、Alb、ChE、Fe、Ca、HGB↓
その他	①採血の体位	総蛋白、Alb、HGB、TC、Ca↑
	②長時間の駆血	K、Ca↑
	③月経周期	LH、FSH、プロラクチン、CA125 などが変動

※引用文書：臨床検査法提要（改訂第 35 版）より

「臨床検査法提要（改訂第 35 版）」EX-輸血-005、EX-生理-1001、EX-病理-0005

19. 個人情報の保護に関する検査室の方針

当院の個人情報の保護に関する基本方針に準じます。

松波総合病院 中央検査室	文書名	文書番号	第 6 版
	検査案内	QT-採取-0001	69 / 69 頁

20. 検査室のご意見ご要望

検査室へのご意見ご要望（苦情を含む）の連絡先は、**ご意見箱**や検査案内の各検査室連絡先または検査部長にご連絡をお願いします。

いただいたご意見、ご要望は、~~臨床検査~~**中央検査センター**運営委員会または**品質管理者会議、役職者会議**にて検討します。

21. 関連文書

「検体採取マニュアル」 [QT-採取-0002](#)

「標準採血法ガイドライン」 [EX-生理-1003](#)

「臨床検査法提要（改訂第 35 版）」 [EX-輸血-005](#)、[EX-生理-1001](#)、[EX-病理-0005](#)

以上